学術評議員会及び通常総会報告

日　時：令和4年3月7日（月）18時10分～20時

場　所：福岡国際会議場（福岡市博多区）とオンライン（リモート）による開催

議決権を有する構成員数：総会（136名），学術評議員会：1,173名

議決権を有する出席者数：通　常　総　会　　：出席者数 91名（本人出席 65名*，議決権行使23名，委任状3名）

学術評議員会　　：出席者数 700名（本人出席268名（うち役員21名）*，委任状432名）

＊ オンライン参加を含む

議長及び議事録署名人：　通　常　総　会　　：議　長　：谷内　一彦　　署名人：廣瀬 謙造，柳田 俊彦

学術評議員会　　：議　長　：宮田　篤郎　　署名人：廣瀬 謙造，柳田 俊彦

定款施行細則第32条に基づき，第95回年会長 宮田 篤郎 氏が学術評議員会の議長，及び定款第19条により，谷内 一彦 理事長が通常総会の議長となり，両会議の成立を確認し，議事録署名人に廣瀬 謙造 氏，柳田 俊彦 氏の2名を指名した．

付議事項

第1号議案　理事・監事選任の件

学術評議員会より，総会に推薦された選挙選出理事候補者14名が部会ごとに提示された．選挙選出監事候補者は全部会を対象とした中から選出された2名が提示された．

新理事：

［ 北 ］　南　　雅文，若森　　実

［関東］　赤羽　悟美，小泉 修一，杉山　　篤，廣瀬　謙造，三澤日出巳

［近畿］　上原　　孝，金井 好克，橋本　　均，古屋敷智之，山田　清文

［西南］　甲斐　広文，津田　　誠

新監事：　上園　保仁，原　　英彰

議長より，候補者それぞれの選任について諮られ，満場一致でこれを承認，可決した．

次に役員選考委員長より，役員選考委員会選出理事候補者の選考の経過と，候補者名が提示された．

役員選考委員会選出理事：諫田 泰成，黒川 洵子，髙橋 禎介，月見 泰博，村松里衣子，柳田 俊彦

議長より，候補者それぞれの選任について諮られ，満場一致でこれを承認，可決した．

第2号議案　令和3年度事業報告及び決算の件

理事長より，配布した資料に基づき令和3年度事業報告及び会員の状況が報告された．続いて財務委員長より令和3年度決算について貸借対照表，正味財産増減計算書，貸借対照表及び正味財産増減計算書の附属明細書並びに財産目録について説明と報告がなされた．

監事より，令和3年度公益社団法人日本薬理学会の事業及び決算を監査の結果，適正に処理されていることを確認した旨の監事監査結果が報告された．

議長より，令和3年度事業報告及び収支決算について付議され，両会議は満場一致でこれを承認，可決した．

第3号議案　令和4年度事業計画及び収支予算の件

理事長より，令和4年度事業計画と収支予算は，令和3年11月25日の理事会で承認され，既に内閣府に提出したものであること，令和4年度は，年会が3月と12月に開催されること，事務局は事業の変化に柔軟に対応できるように体制を整えて運営を行うことが説明された．

議長より，令和4年度事業計画及び収支予算について付議され，両会議は満場一致でこれを承認した.

第4号議案　諸規則の件

総務委員長より，常置委員会規定第10条，年会学術企画委員会規定第7条，賞等選考委員会規定第8条，江橋賞選考委員会規定第8条，倫理委員会規定第13条各規定の「署名押印」あるいは「署名・押印」を「署名（電子署名可)」に，COI 自己申告書様式3の押印を廃止し，署名のみとする変更案が説明された.

議長より，規則の変更について付議され，両会議は満場一致で承認，可決した.

第5号議案　名誉会員及び永年会員の件

議長より，理事会が推薦した9名の令和4年度新名誉会員への推戴，8名の令和4年度新永年会員への推戴が付議され，両会議は満場一致で承認，可決した.

名誉会員：石井 邦明，木村 英雄，五嶋 良郎，　笹栗 俊之，關野 祐子，西堀 正洋，松木 則夫，
宮田 篤郎，矢部 千尋

永年会員：石川 直久，石田 行知，小野寺憲治，七戸 和博，篠原 光子，戸苅 彰史，中神 啓仁，渡邉 泰雄

第6号議案　第97回年会長の件

議長より，1）第97回年会開催を近畿部会とすること，2）理事会は，医薬基盤研究所の今井由美子プロジェクトリーダーを第97回年会長として選考したこと，が報告された．今井由美子氏を第97回年会長に決定する件につき付議され，両会議は満場一致でこれを承認，可決した.

第97回年会は，第96回年会に続いて日本臨床薬理学会と同時期開催を予定しており，2023年12月に開催することが報告され，演題登録期間を含むスケジュール変更への理解と協力が呼びかけられた.

第7号議案　新学術評議員の件

議長より，企画教育委員会は新学術評議員候補者として33名を選定したことが報告された．令和4年度学術評議員に選任する件について付議され，両会議は満場一致でこれを承認，可決した.

第96回年会報告

安西 尚彦第96回年会長より，第96回年会の準備状況が報告された.

理事会・委員会等活動報告

1)理事会，2)総務委員会，財務委員会，編集委員会，研究推進委員会，広報委員会及び企画教育委員会の 6 常置委員会，3)年会学術企画委員会，国際対応委員会，江橋賞選考委員会及び賞等選考委員会の 4 特別委員会，ダイバーシティの取組み，次世代の会の各活動状況が，総会資料に基づき報告された.

令和４年度

公益社団法人　日本薬理学会

学術評議員会・通常総会資料

令和４年３月７日(月) １８時１０分より
福岡国際会議場３階　メインホール（Ａ会場）
福岡市博多区

資料目次

Ⅰ.	令和３年度事業報告	1
Ⅱ.	令和３年度決算報告	6
Ⅲ.	令和４年度事業計画	16
Ⅳ.	令和４年度収支予算	19
Ⅴ.	名誉会員候補者一覧	23
Ⅵ.	永年会員候補者一覧	24
Ⅶ.	部会選出新常置委員会委員一覧	25
Ⅷ.	規則の変更	26
Ⅸ.	理事会等報告	27
Ⅹ.	委員会等報告	30
Ⅺ.	新学術評議員候補者一覧	40
Ⅻ.	薬理学エデュケーター認定者一覧	43

日本薬理学会ホームページ
〈 https://www.pharmacol.or.jp 〉

日本薬理学会ホームページ英語版
〈 https://pharmacol.or.jp/e/ 〉

ＪＰＳホームページ
〈 https://www.journals.elsevier.com/journal-of-pharmacological-sciences 〉

公益社団法人日本薬理学会

令和４年度学術評議員会及び通常総会

１．開催日時：令和４年３月７日（月）18 時 10 分より

２．開催場所：福岡国際会議場３階　メインホール（Ａ会場）

３．付議事項

第１号議案　　理事，監事選任の件

第２号議案　　令和３年度事業報告及び収支決算承認の件

第３号議案　　令和４年度事業計画及び収支予算の件

第４号議案　　諸規則の件

第５号議案　　名誉会員及び永年会員の件

第６号議案　　第 97 回年会長の件

第７号議案　　新学術評議員の件

代 議 員 一 覧

（任期：2020 年 11 月 10 日から 2022 年に実施される代議員選挙の日まで）

【北 部 会】（17 名）

泉　剛	岡村　信行	小原祐太郎	久米　利明	佐藤　岳哉	平　英一
谷村　明彦	東田　千尋	中川　崇	中川西　修	新田　淳美	弘瀬　雅教
守屋　孝洋	山脇　英之	結城　幸一	吉川　雄朗	若森　実	

【関東部会】（50 名）

相澤　直樹	阿部　和穂	安東賢太郎	池谷　裕二	池田　和隆	池田　弘子
石毛久美子	稲津　正人	上園　保仁	加藤　英明	加藤　総夫	釜井　隆男
亀井　淳三	葛巻　直子	熊井　俊夫	呉林なごみ	輿水　崇鏡	小菅　康弘
小林　恒雄	小林　真之	三枝　禎	斎藤　顕宜	櫻井　隆	佐藤　薫
佐藤　洋美	佐藤　光利	柴田　佳太	下田　和孝	千本松孝明	高木　教夫
高田　龍平	高野　博之	高原　章	田中　芳夫	田野中浩一	茶木　茂之
辻　まゆみ	辻　稔	中原　努	橋本　弘史	平山　友里	廣瀬　謙造
松木　則夫	松本　直樹	三澤日出巳	宮川　和也	村松里衣子	村山　尚
山口　重樹	山田　充彦				

【近畿部会】（49 名）

青山　峰芳	浅沼　幹人	東　泰孝	天ヶ瀬紀久子	石澤　啓介	石澤　有紀
井上　敦子	居場　嘉教	衣斐　督和	大野　行弘	大矢　進	小坂田文隆
笠井　淳司	加藤　伸一	金井　好克	北市　清幸	木村　和哲	倉本　展行
合田　光寛	小山　豊	座間味義人	四宮　一昭	嶋澤　雅光	白井　康仁
白川　久志	新谷　紀人	高井　真司	高田　和幸	宝田　剛志	田熊　一敞
田中　康一	田中　智之	田中　宏幸	徳山　尚吾	永井　拓	中川　貴之
中村　一基	西村　有平	西山　成	橋本　均	人見　浩史	檜井　栄一
水谷　暢明	森　秀治	森　泰生	森岡　徳光	山田　清文	山村　寿男
米山　雅紀					

【西南部会】（20 名）

池田　龍二	今村　武史	岩本　隆宏	甲斐　広文	梶岡　俊一	栗原　崇
清水　翔吾	清水　孝洋	首藤　隆秀	菅原　英輝	田頭　秀章	竹内　弘
筒井　正人	寺薗　英之	西　昭徳	西田　基宏	根本　隆行	東　洋一郎
茂木　正樹	柳田　俊彦				

以上 136 名

Ⅰ．令和３年度事業報告

１．学術集会,講演会等の開催（定款第４条第１号）

(1) 年会の開催

第94回 日本薬理学会年会『The Exciting Future of Pharmacology「ワクワクする薬理学の未来」』

2021年３月８日(月)～10日(水)，札幌コンベンションセンター（北海道札幌市）及びリモート開催

年 会 長：吉岡 充弘（北海道大学･院医）

副年会長：南　 雅文（北海道大学･院薬）

登録者数：計1,424名，演題数：678演題

（学術評議員 541名，一般会員 287名，大学院生 208名，学部学生 178名，非会員 90名，シンポジスト 77名，名誉会員・永年会員他 43名）

Plenary Lecture 1演題，特別講演 9演題，教育講演 1演題，JPS-ASCEPT Lecture 1演題，受賞講演 4演題（江橋節郎賞 1演題，学術奨励賞 3演題），年会企画シンポジウム 1企画 4演題，企業企画シンポジウム 4企画 14演題，シンポジウム23企画 90演題，JPS企画シンポジウム 1企画 4演題，次世代の会企画シンポジウム 1企画 4演題，日中薬理・臨床薬理ジョイントミーティング 1企画 4演題，共催シンポジウム 1企画 4演題，一般演題151(口演・ポスター)，Late breaking session 23

(2) 地方部会

第144回日本薬理学会関東部会　部会長：石毛久美子（日本大学・薬）
2021年６月５日　オンライン開催
参加者約280名，教育講演1，一般演題（口演36題，ポスター17題）

第139回日本薬理学会近畿部会　部会長：山田 清文（名古屋大学・院医）
2021年６月26日　オンライン開催
参加者212名，次世代薬理学セミナー，一般演題（口演73題）

第 72回 日本薬理学会北部会　部会長：丹野 孝一（東北医科薬科大学・薬）
2021年９月23日　オンライン開催
参加者94名，特別講演1，一般演題（口演33題）

第145回日本薬理学会関東部会　部会長：石川 智久（静岡県立大学・院薬）
2021年10月９日　オンライン開催
参加者約200名，特別講演1，シンポジウム5，一般演題（口演30題，ポスター27題）

第140回日本薬理学会近畿部会　部会長：吉栖 正典（奈良県立医科大学・医）
2021年11月13日　奈良県コンベンションセンター
参加者200名，シンポジウム1，一般演題（口演57題）

第 74回日本薬理学会西南部会　部会長：西　昭徳（久留米大学・医）
2021年11月20日　久留米大学筑水会館（ハイブリッド開催）
参加者約122名，特別講演2，一般演題（口演28題，ポスター17題）

(3) 次世代薬理学セミナーの開催

・次世代薬理学セミナー in 名古屋（第139回近畿部会開催時オンライン開催）2021年６月26日
『神経変性疾患 ～診断・病態解明・予防/治療の最前線～』

・次世代薬理学セミナー in 静岡（第145回関東部会開催時オンライン開催）2021年10月９日
『先端的異分野融合で切り拓く新たな創薬研究』

(4) 看護薬理学カンファレンスの開催

・看護薬理学カンファレンス in 札幌（第94回年会開催時オンライン開催），2021年３月７日
大会長：谷村 明彦（北海道医療大学･歯）

・看護薬理学カンファレンス in 奈良（第140回近畿部会開催時オンライン開催），2021年11月13日
大会長：山田 清文（名古屋大学・院医）

・看護薬理学カンファレンス in 仙台（第42回日本臨床薬理学会学術総会開催時オンライン開催），2021年12月11日
大会長：南　 雅文（北海道大学･院薬）

(5) 他学会等との共催学術集会の開催

・日本毒性学会共催シンポジウム　2021 年 3 月 8 日（第 94 回日本薬理学会年会時），札幌コンベンションセンター
『薬理学・毒性学視点からアプローチするエクスポソーム研究』
座　長：上原　孝（岡山大学・院医歯薬），伊藤　昭博（東京薬科大学・生命科学）
ｺﾒﾝﾃｰﾀｰ：西田　基宏（九州大学・院薬）

・日本臨床薬理学会共催シンポジウム　2021 年 12 月 9 日（第 42 回日本臨床薬理学会学術総会時），仙台国際センター
『地域から世界へ：地域発で世界をリードするオープンイノベーションの現状と展望』
座　長：安西　尚彦（千葉大学・院医），和田 孝一郎（島根大学・医）
ｺﾒﾝﾃｰﾀｰ：茂木　正樹（愛媛大学・院医）

・日本臨床薬理学会共催シンポジウム　2021 年 12 月 10 日（第 42 回日本臨床薬理学会学術総会時），仙台国際センター
『過活動膀胱の薬物療法の現在と未来』
座　長：齊藤　源顕（高知大学・医），木村　和哲（名古屋市立大学・医）
ｺﾒﾝﾃｰﾀｰ：柳田　俊彦（宮崎大学・医）

(6) 内外の関連学術団体との連携及び協力

・第 8 回日中薬理学・臨床薬理学 Joint Meeting を第 94 回年会に併せて 3 月 10 日に Web で開催した.
・JPS-ASCEPT Lecture は第 94 回年会会期中の 3 月 10 日に Monash University の Dr. Denise Wootten を招聘し Web で講演を行った.
・ASPET との講師交換プログラムとして，大阪大学の金井 好克教授が EB2021（4 月 27 日～30 日）を派遣し，Web で講演を行った.
・第 23 回韓日薬理学合同セミナーを 6 月 25 日に Web で開催した．本会から，廣瀬 謙造教授（東京大学），谷内 一彦教授（東北大学），甲斐 広文教授（熊本大学）の講演に加え，short lecture 3 演題，ePoster 19 演題の発表が行われた.
・第 14 回 APFP 会議（APFP 2021）が，11 月 26 日～29 日に台北市（台湾）で開催された（ハイブリッド開催）.
・ASCEPT-JPS Lecture は 12 月 1 日に大阪大学の橋本 均教授（大阪大学）を派遣し，Web で講演を行った.

２．学会誌等刊行物の刊行（定款第 4 条第 2 号）

(1) Journal of Pharmacological Sciences の刊行

発行巻号　145 巻 1～4 号，146 巻 1～4 号，147 巻 1～4 号

	掲載頁数	（篇数）
① Review	62 頁	(8)
② Full Paper	864 頁	(95)
③ Short Communication	57 頁	(13)
合計	983 頁	(116)

(2) 日本薬理学雑誌（くすりとからだ／ファーマコロジカ）の刊行

発行巻号（部数）　156 巻 1 号（3,700 部），156 巻 2 号（3,600 部），156 巻 3 号（3,100 部），156 巻 4 号（3,300 部），156 巻 5 号（3,350 部），156 巻 6 号（3,500 部）

	掲載頁数	（篇数）
① 特集序文	11 頁	(11)
② 特集および総説	228 頁	(46)
③ 実験技術	0 頁	(0)
④ 創薬シリーズ	38 頁	(6)
⑤ 新薬紹介総説	82 頁	(9)
⑥ キーワード解説	0 頁	(0)
⑦ 最近の話題	7 頁	(7)
⑧ サイエンス/リレーエッセイ	4 頁	(4)
⑨ 学会便り/研究室訪問	7 頁	(7)
⑩ アゴラ	12 頁	(6)
⑪ 広告	21 頁	
⑫ 綴込み，目次等上記以外の頁	66 頁	
合計	476 頁	(96)

３．研究の奨励及び研究業績の表彰（定款第４条第３号）

(1) 第 14 回日本薬理学会江橋節郎賞授賞

西堀　正洋（岡山大学大学院医歯薬学総合研究科・教授）

第 15 回日本薬理学会江橋節郎賞決定

林　康紀（京都大学大学院医学研究科・教授）

(2) 第 36 回日本薬理学会学術奨励賞授賞（所属等の標記は授賞時）

川畑　伊知郎（東北大学大学院・薬学研究科・特任准教授）

『パーキンソン病の新たな創薬標的の解明とその予防・治療応用研究』

菊田　順一（大阪大学大学院・医学系研究科・准教授）

『生体イメージングによる骨疾患治療薬の in vivo 薬理作用の解明』

野村　洋（北海道大学大学院・薬学研究院・講師）

『記憶・学習を司る神経回路機構および認知機能障害に対する創薬に関する研究』

第 37 回日本薬理学会学術奨励賞決定

葛巻　直子（星薬科大学・薬理学研究室・准教授）

『疾患 iPS 細胞分化誘導細胞の多次元的細胞特異的解析を応用した細胞特異的
遺伝子改変疾患モデル動物による高感度リバーストランスレーショナル研究の確立』

篠原　亮太（神戸大学大学院・医学研究科・講師）

『神経回路の形成・可塑性のメカニズムと病態生理学的意義の解明』

原田　龍一（東北大学大学院・医学系研究科・助教）

『PET プローブを用いた神経病理画像化に関する研究』

(3) 第 26 回 Journal of Pharmacological Sciences 優秀論文賞決定

「Neuropeptide oxytocin enhances μ opioid receptor signaling as a positive allosteric modulator」

Yoshiyuki Meguro, Kanako Miyano, Shigeto Hirayama, Yuki Yoshida, Naoto Ishibashi, Takumi Ogino, Yuriko Fujii, Sei Manabe, Moeko Eto, Miki Nonaka, Hideaki Fujii, Yoichi Ueta, Minoru Narita, Naohiro Sata, Toshihiko Yada, Yasuhito Uezono
Volume 137, Issue 1, Pages 67-75 (2018)

(4) 第 94 回年会優秀発表賞（五十音順･24 名）

浅岡 希美（京都府立医科大･院医･病態分子薬理学）
江崎 博仁（金沢大･院薬･薬理学）
岡本 聖香（神戸大･農･生命機能学）
河合 洋幸（京都大･院薬･生体機能解析学）
北風 圭介（徳島大･先端酵素研･生体機能学）
黒澤 珠希（東京大･院農･獣医薬理学）
小林 大地（新潟大･院医歯･免疫医動物学）
佐藤 史爽（広島大･薬･薬効解析学）
長沢 思音（静岡県立大･院菜食生命･生体情報分子解析）
西中 杏里（岐阜薬科大･薬･薬効解析学）
吉本 愛梨（慶應義塾大･薬･薬学教育セ）
李　冠傑（東北大･院医･分子薬理学）
石川 由香（神戸大･医･薬理学）
大野 雄太（朝日大･歯･歯科薬理学）
抱　将史（京都大･院薬･生体機能解析学）
神林 隆一（東邦大･医･薬理学）
北島 奈美（東京大･院医･細胞分子薬理学）
河野 敬太（九州大･院薬･薬理学）
坂口 怜子（京都大･院工･合成･生物化学）
田村 佑介（東京大･院医･分子病理学）
中村 朱里（東京都医学研･脳･神経科学）
原田 雄生（大阪大･院薬･臨床薬効学）
米持 奈央美（星薬科大･薬･薬物治療学）
HIKMAWAN WAHYU SULISTOMO（宮崎大･医･薬理学）

(5) 2021 年度 JPS 優秀査読者賞

・Daisuke Nakano (Kagawa University)
・Takeya Sato (Tohoku University School of Medicine)
・Tatsuhiko Furukawa (Kagoshima University)
・Yasuhito Uezono (National Cancer Center Research Institute)
・Yukio Ago (Hiroshima University)

４．薬理学に関する研究及び調査（定款第 4 条第 4 号）

(1) 第 94 回年会のダイバーシティセミナー終了後のアンケートで「学生，より若い教員・研究者から話を聞く機会があると良い」という要望が複数寄せられたことから，次回年会で「アンコンシャスバイアス」というテーマのセミナーを企画する．

(2) 日本医学会連合の厚生労働科研から「新型コロナウイルス感染症による他疾患等への影響調査研究」への協力依頼があり，JPS に投稿された論文の中で COVID-19 関連の論文について Elsevier の協力を得て調査を行い，結果を報告した．

５．内外の関連学術団体との連携及び協力（定款第 4 条第 5 号）

(1) 学術集会の共催および連携　上記 1.の(6)参照

(2) 学術集会の協賛･後援　（令和 3 年総会資料掲載以降令和 4 年総会の前日まで）

後 援

1)	日本学術会議第 2 部臨床医学委員会 -脳とこころ分科会主催シンポジウム-	（オンライン開催）	令和 3 年 6 月 20 日,27 日
2)	生体機能と創薬シンポジウム 2021		8 月 26 日,27 日
3)	第 26 回 日本病態プロテアーゼ学会学術集会	（オンライン開催）	8 月 27 日，28 日
4)	次世代を担う若手のための創薬・医療薬理シンポジウム 2021	（オンライン併用）	8 月 28 日
5)	第 22 回応用薬理シンポジウム	（オンライン開催）	9 月 4 日
6)	第 40 回鎮痛薬・オピオイドペプチドシンポジウム	（オンライン開催）	9 月 4 日,5 日
7)	第 69 回脳の医学・生物学研究会	（オンライン開催）	9 月 18 日
8)	創薬薬理フォーラム第 29 回シンポジウム	（オンライン開催）	10 月 7 日,8 日
9)	第 5 回感覚フロンティア研究シンポジウム	（オンライン開催）	10 月 16 日
10)	日本動物実験代替法学会第 34 回大会	（オンライン併用）	11 月 11 日～13 日
11)	日本薬物動態学会第 36 回年会		11 月 16 日～19 日
12)	第 31 回日本循環薬理学会		12 月 3 日
13)	第 7 回ゼブラフィッシュ・メダカ創薬研究会		12 月 3 日
14)	CVMW2021 心血管代謝週間	（オンライン開催）	12 月 10 日,11 日
15)	［子どもの薬を創る会」第 1 回オンラインセミナー 小児心不全治療薬の課題と対策－学会主導の小児治験促進活動-	（オンライン開催）	12 月 25 日
16)	第 70 回 脳の医学・生物学研究会	（オンライン開催）	令和 4 年 1 月 29 日
17)	第 31 回神経行動薬理若手研究者の集い		3 月 6 日

協 賛

1)	第 28 回ＨＡＢ研究機構学術年会	（オンライン開催）	令和 3 年 6 月 3 日,4 日
2)	CBI 学会 2021 年大会	（オンライン開催）	10 月 26 日～28 日
3)	第 4 回医薬品毒性機序研究会	（オンライン開催）	12 月 16 日,17 日

６．会議等の開催状況（令和３年総会資料掲載以降令和４年総会前日まで）

総　　会	令和３年度 通常総会	令和３年３月８日	（札幌）
学術評議員会	令和３年度	令和３年３月８日	（札幌）
理　事　会	令和３年度第２回	令和３年３月７日	（札幌）
	第３回	６月 29 日	（Zoom MTG）
	第４回	11 月 25 日	（　〃　）
（臨時理事会）	第５回	12 月 25 日	（　〃　）
	令和４年度第１回	令和４年２月	（決議の省略）
	第２回	３月６日	（福岡）
（拡大）常務理事会	令和３年度第１回	令和３年６月 29 日	（ﾒｰﾙ 審議）
	第２回	８月 11 日	（Zoom MTG）
総務委員会	令和３年度 第１回	令和３年 11 月５日	（Zoom MTG）
財務委員会	令和３年度 第１回	11 月９日	（Zoom MTG）
	財務ワーキング	11 月８日	（　〃　）
	会計監査	令和４年１月 6,24,26 日	（東京）
	監事監査	２月７日	（東京＆Zoom MTG）
編集委員会	令和３年度 第１回	令和３年７月 19 日	（Zoom MTG）
	第２回	12 月 10 日	（ﾒｰﾙ 審議）
研究推進委員会	令和３年度 第１回	令和３年６月８日	（Zoom MTG）
広報委員会	令和３年度 第１回	令和３年３月 31 日	（Zoom MTG）
企画教育委員会	令和３年度 第２回	令和３年８月６日	（Zoom MTG）
	第３回	10 月８日	（　〃　）
	第４回	令和４年１月 24 日	（　〃　）
賞等選考委員会	令和３年度 第１回	令３年６月１日	（Zoom MTG）
	第２回	10 月５日	（　〃　）
年会学術企画委員会	令和３年度 第１回	令和３年５月 26 日	（Zoom MTG）
	第２回	９月８日	（　〃　）
江橋賞選考委員会	令和３年度 第１回	令和３年 10 月 15 日	（Zoom MTG）
国際対応委員会	令和３年度 第１回	令和３年６月３日	（Zoom MTG）
国際アソシエイツ交流会		８月４日	（　〃　）

７．会員状況（令和３年 12 月 31 日現在）

会員数および異動状況（下段は前年度との差）

代 議 員 （正会員に含む）	名誉会員	永年会員	正 会 員		総　　数
			学術評議員	一般会員	
１３６	１２５	１１８	１，２０５	２，４８９	３，９３７
－４	－２	＋９	－４２	－８７	－１２２

新入会者数：336 名，退会者数：458 名（逝去者，会費未納除籍者含む）

令和３年度事業報告には，「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第３項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない．

Ⅱ．令和３年度決算報告

独立監査人の監査報告書

令和４年２月７日

公益社団法人日本薬理学会
　理事長　谷内　一彦　殿

中村公認会計士事務所
公認会計士　　中村　友理香　　㊞

＜財務諸表等監査＞

監査意見

私は、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律第 23 条の規定に準じ、公益社団法人日本薬理学会の令和３年１月１日から令和３年 12 月 31 日までの令和３年度の貸借対照表及び損益計算書（公益認定等ガイドラインⅠ－５(1)の定めによる「正味財産増減計算書」をいう。）及び財務諸表に対する注記並びに附属明細書について監査し、併せて、正味財産増減計算書内訳表（以下、これらの監査の対象書類を「財務諸表等」という。）について監査を行った。

私は、上記の財務諸表等が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して、当該財務諸表等に係る期間の財産、損益（正味財産増減）の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

私は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における私の責任は、「財務諸表等の監査における監査人の責任」に記載されている。私は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、法人から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。私は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

財務諸表等に対する理事者及び監事の責任

理事者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して財務諸表等を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表等を作成し適正に表示するために理事者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表等を作成するに当たり、理事者は、継続組織の前提に基づき財務諸表等を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に基づいて継続組織に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監事の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における理事の職務の執行を監視することにある。

財務諸表等の監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表等に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表等に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表等の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

・不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
・財務諸表等の監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
・理事者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに理事者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
・理事者が継続組織を前提として財務諸表等を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監

査証拠に基づき、継続組織の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続組織の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表等の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表等の注記事項が適切でない場合は、財務諸表等に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、法人は継続組織として存続できなくなる可能性がある。

・財務諸表等の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表等の表示、構成及び内容、並びに財務諸表等が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監事に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

＜財産目録に対する意見＞

財産目録に対する監査意見

私は、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律第 23 条の規定に準じ、公益社団法人日本薬理学会の令和 3 年 12 月 31 日現在の令和 3 年度の財産目録（「貸借対照表科目」、「金額」及び「使用目的等」の欄に限る。以下同じ。）について監査を行った。

私は、上記の財産目録が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠しており、公益認定関係書類と整合して作成されているものと認める。

財産目録に対する理事者及び監事の責任

理事者の責任は、財産目録を、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠するとともに、公益認定関係書類と整合して作成することにある。

監事の責任は、財産目録作成における理事の職務の執行を監視することにある。

財産目録に対する監査における監査人の責任

監査人の責任は、財産目録が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠しており、公益認定関係書類と整合して作成されているかについて意見を表明することにある。

利害関係

法人と私との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以　　上

監 査 報 告 書

公益社団法人日本薬理学会
理事長　谷内　一彦　殿

令和 4 年 2 月 7 日
公益社団法人日 本 薬 理 学 会
監事　　笹栗　俊之　㊞
監事　　関野　祐子　㊞

私たちは，令和 3 年 1 月 1 日から令和 3 年 12 月 31 日までの会計年度における会計及び業務の監査を行い，次のとおり報告する．

1　監査の方法の概要

(1)　会計監査について，帳簿並びに関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続を用いて，財務諸表並びに収支計算書の正確性を検討した．

(2)　業務監査について，理事会及びその他の会議に出席し，理事から業務の報告を聴取し，関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続を用いて業務執行の妥当性を検討した．

2　監査意見

(1)　貸借対照表，正味財産増減計算書，財産目録及び収支計算書は，会計帳簿の記載金額と一致し，法人の収支及び財産の状況を正しく示していると認める．

(2)　事業報告書の内容は，真実であると認める．

(3)　理事の業務執行に関する不整の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な過失はないと認める．

貸借対照表

令和3年12月31日現在

（単位:円）

科　目	当年度	前年度	増　減
Ⅰ　資産の部			
1. 流動資産			
現　　金	516,115	58,943	457,172
預 貯 金	92,882,856	98,554,237	△ 5,671,381
未収入金	2,824,536	2,789,330	35,206
仮 受 金	0	200,000	△ 200,000
前 払 金	5,061,482	2,100,000	2,961,482
貯 蔵 品	3,390	3,605	△ 215
流動資産合計	101,288,379	103,706,115	△ 2,417,736
2. 固定資産			
(1) 特定資産			
薬理学基金	50,000,000	50,000,000	0
国際基金	11,632,338	1,632,338	10,000,000
振興基金			
学術講演基金	14,117,149	14,117,149	0
刊行基金	15,782,824	15,782,824	0
褒賞基金	12,004,589	12,004,589	0
年会運営資産	780,000	10,110,000	△ 9,330,000
部会運営資産	0	97,950	△ 97,950
国際情報発信強化資産	0	1,350,450	△ 1,350,450
百周年記念積立資産	7,000,000	2,000,000	5,000,000
特定資産合計	111,316,900	107,095,300	4,221,600
(2) その他固定資産			
ソフトウェア	1,795,834	3,407,394	△ 1,611,560
電話加入権	2	2	0
保 証 金	1,572,000	1,572,000	0
投資有価証券	1,502,400	0	1,502,400
その他固定資産合計	4,870,236	4,979,396	△ 109,160
固定資産合計	116,187,136	112,074,696	4,112,440
資 産 合 計	217,475,515	215,780,811	1,694,704
Ⅱ　負債の部			
1. 流動負債			
前 受 金	7,214,000	6,447,000	767,000
未 払 金	6,148,790	5,268,625	880,165
預 り 金	335,578	224,501	111,077
流動負債合計	13,698,368	11,940,126	1,758,242
2. 固定負債			
固定負債合計	0	0	0
負 債 合 計	13,698,368	11,940,126	1,758,242
Ⅲ　正味財産の部			
1. 指定正味財産			
受取補助金	0	1,350,450	△ 1,350,450
受取寄付金	3,780,000	10,207,950	△ 6,427,950
指定正味財産合計	3,780,000	11,558,400	△ 7,778,400
(うち特定資産への充当額)	(3,780,000)	(11,558,400)	(△7,778,400)
2. 一般正味財産	199,997,147	192,282,285	7,714,862
(うち特定資産への充当額)	(107,536,900)	(95,536,900)	(12,000,000)
正味財産合計	203,777,147	203,840,685	△ 63,538
負債及び正味財産合計	217,475,515	215,780,811	1,694,704

正味財産増減計算書

令和3年1月1日から令和3年12月31日まで　　（単位:円）

科　目	当年度	前年度	増　減
Ⅰ　一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1)経常収益			
①　特定資産運用益	83,819	3,642	80,177
薬理学基金受取利息	0	600	△ 600
国際基金・振興基金受取利息	83,819	3,042	80,777
②　受取会費	41,767,000	43,218,000	△ 1,451,000
一般会員会費	16,396,000	16,748,000	△ 352,000
学術評議員会費	17,991,000	18,310,000	△ 319,000
賛助会員会費	7,380,000	8,160,000	△ 780,000
③　事業収益	28,517,941	25,941,723	2,576,218
学術集会費収益	19,938,250	17,999,300	1,938,950
購読料収益	471,150	492,640	△ 21,490
論文掲載料収益	6,356,200	5,863,400	492,800
論文別刷料収益	405,281	605,623	△ 200,342
広告掲載料収益	1,347,060	980,760	366,300
④　薬理学エデュケーター申請収益	270,000	1,920,000	△ 1,650,000
申請料収益	270,000	1,920,000	△ 1,650,000
⑤　受取補助金等	11,370,450	8,194,853	3,175,597
学術集会補助金	3,520,000	745,303	2,774,697
指定正味財産からの振替額	7,850,450	7,449,550	400,900
⑥　受取寄付金	18,971,950	5,812,050	13,159,900
学術集会賛助金	8,764,000	4,320,000	4,444,000
指定正味財産からの振替額	10,207,950	1,492,050	8,715,900
⑥　雑　収　益	673,564	78,568	594,996
受取利息	1,441	1,638	△ 197
雑　収　益	672,123	76,930	595,193
経常収益計	101,654,724	85,168,836	16,485,888
(2)経常費用			
①　事　業　費	82,525,647	61,670,688	20,854,959
給与手当	3,197,112	0	3,197,112
法定福利費	405,935	0	405,935
中退共掛金	24,000	0	24,000
事務所借料	1,818,516	1,463,616	354,900
会　場　費	20,353,393	5,367,697	14,985,696
旅費・通信交通費	1,039,846	1,785,868	△ 746,022
印　刷　費	3,102,792	5,345,668	△ 2,242,876
会　議　費	857,933	1,063,397	△ 205,464
謝金・その他	15,561,786	5,555,624	10,006,162
懇親会費	73,832	0	73,832
編集・刊行費	12,763,710	11,711,525	1,052,185
国際情報発信強化費	7,850,450	7,449,550	400,900
学術事業協力費	323,900	328,400	△ 4,500
副　　賞	1,090,490	950,490	140,000
消耗品費	0	11,000	△ 11,000
業務委託費	12,681,792	19,049,293	△ 6,367,501
租税公課	350,000	558,400	△ 208,400
減価償却費	1,030,160	1,030,160	0

科　目	当年度	前年度	増　減
② 管　理　費	13,414,215	10,907,308	2,506,907
給与手当	1,904,928	0	1,904,928
法定福利費	101,484	0	101,484
中退共掛金	6,000	0	6,000
事務所借料	779,364	627,264	152,100
臨時雇賃金	0	113,029	△ 113,029
旅費・通信交通費	1,044,249	1,726,299	△ 682,050
印　刷　費	0	190,520	△ 190,520
会　議　費	92,616	295,491	△ 202,875
リース料	252,528	222,168	30,360
消耗品費	2,026,465	1,094,496	931,969
支払手数料	1,756,267	1,834,893	△ 78,626
慶弔費	241,043	366,190	△ 125,147
業務委託費	4,415,071	3,644,335	770,736
租税公課	4,400	4,300	100
減価償却費	581,400	626,400	△ 45,000
選　挙　費	0	35,462	△ 35,462
雑　　費	208,400	126,461	81,939
経常費用計	95,939,862	72,577,996	23,361,866
評価損益等調整前当期経常増減額	5,714,862	12,590,840	△ 6,875,978
基本財産評価損益等	0	0	0
特定資産評価損益等	0	0	0
投資有価証券評価損益等	0	0	0
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	5,714,862	12,590,840	△ 6,875,978
2. 経常外増減の部			
(1)経常外収益			
受取給付金	2,000,000	0	2,000,000
経常外収益計	2,000,000	0	2,000,000
(2)経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	2,000,000	0	2,000,000
当期一般正味財産増減額	7,714,862	12,590,840	△ 4,875,978
一般正味財産期首残高	192,282,285	179,691,445	12,590,840
一般正味財産期末残高	199,997,147	192,282,285	7,714,862
Ⅱ 指定正味財産増減の部			
受取補助金	6,500,000	6,500,000	0
受取寄付金	3,780,000	10,480,000	△ 6,700,000
一般正味財産への振替額	△ 18,058,400	△ 8,941,600	△ 9,116,800
当期指定正味財産増減額	△ 7,778,400	8,038,400	△ 15,816,800
指定正味財産期首残高	11,558,400	3,520,000	8,038,400
指定正味財産期末残高	3,780,000	11,558,400	△ 7,778,400
Ⅲ 正味財産期末残高	203,777,147	203,840,685	△ 63,538

正味財産増減計算書内訳表

令和3年1月1日から令和3年12月31日まで

（単位：円）

	公益目的事業会計						収益事業等会計	法人会計	内部取引等消去	合 計
	公1 学術集会等開催	公2 刊 行	公3 褒 賞	公4 連 携	共 通	小 計	認 定			
Ⅰ一般正味財産増減の部										
1．経常増減の部										
(1)経常収益										
特定資産運用益						41,910		41,909		83,819
特定資産利息					41,910	41,910		41,909		83,819
受取会費						20,883,500		20,883,500		41,767,000
一般会員会費					8,198,000	8,198,000		8,198,000		16,396,000
学術評議員会費					8,995,500	8,995,500		8,995,500		17,991,000
賛助会員会費					3,690,000	3,690,000		3,690,000		7,380,000
事業収益						28,609,941			△ 92,000	28,517,941
学術集会費収益	20,012,250					20,012,250			△ 74,000	19,938,250
購読料収益		471,150				471,150				471,150
論文掲載料収益	2,577,000	3,797,200				6,374,200			△ 18,000	6,356,200
論文別刷料収益		405,281				405,281				405,281
広告掲載料収益		1,347,060				1,347,060				1,347,060
薬理学エデュケーター申請収益							270,000			270,000
申請料収益							270,000			270,000
受取補助金等						11,370,450				11,370,450
学術集会補助金	3,520,000					3,520,000				3,520,000
指定正味財産からの振替額		7,850,450				7,850,450				7,850,450
受取寄付金						18,971,950		0	0	18,971,950
学術集会賛助金	8,764,000					8,764,000				8,764,000
指定正味財産からの振替額	10,207,950					10,207,950				10,207,950
雑収益						428,035	32,868	212,661	0	673,564
受取利息	61				690	751		690		1,441
雑収益	262,944	65,736	65,736	32,868		427,284	32,868	211,971		672,123
経常収益計	45,344,205	13,936,877	65,736	32,868	20,926,100	80,305,786	302,868	21,138,070	△ 92,000	101,654,724
(2)経常費用										
事業費										
給料手当	2,324,124	181,392	328,812	181,392		3,015,720	181,392			3,197,112
法定福利費	304,451	25,371	25,371	25,371		380,564	25,371			405,935
中退共掛金	18,000	1,500	1,500	1,500		22,500	1,500			24,000
事務所借料	1,039,152	259,788	259,788	129,894		1,688,622	129,894			1,818,516
会場費	20,353,393					20,353,393				20,353,393
旅費・通信交通費	1,020,844	10,996	2,000	3,000		1,036,840	3,006			1,039,846
印刷費	3,102,792					3,102,792				3,102,792
会議費	852,965			4,968		857,933				857,933
謝金・その他	15,086,170		556,850			15,643,020	766		△ 82,000	15,561,786
懇親会費	73,832					73,832				73,832
編集・刊行費		12,763,710				12,763,710				12,763,710
国際情報発信強化費		7,850,450				7,850,450				7,850,450
学術事業協力費				323,900		323,900				323,900
副 賞			1,090,490			1,090,490				1,090,490
業務委託費	10,057,757	1,487,245	378,930	378,930		12,302,862	378,930			12,681,792
租税公課	217,000	133,000				350,000				350,000
減価償却費	920,160					920,160	110,000			1,030,160
事業費計	55,370,640	22,713,452	2,643,741	1,048,955	0	81,776,788	830,859	0	△ 82,000	82,525,647
管理費										
給料手当								1,904,928		1,904,928
法定福利費								101,484		101,484
中退共掛金								6,000		6,000
事務所借料								779,364		779,364
旅費・通信交通費								1,044,249		1,044,249
会議費								92,616		92,616
リース料								252,528		252,528
消耗品費								2,026,465		2,026,465
支払手数料								1,756,267		1,756,267
慶弔費								251,043	△ 10,000	241,043
業務委託費								4,415,071		4,415,071
租税公課								4,400		4,400
減価償却費								581,400		581,400
雑 費								208,400		208,400
管理費計								13,424,215	△ 10,000	13,414,215
経常費用計	55,370,640	22,713,452	2,643,741	1,048,955	0	81,776,788	830,859	13,424,215	△ 92,000	95,939,862
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 10,026,435	△ 8,776,575	△ 2,578,005	△ 1,016,087	20,926,100	△ 1,471,002	△ 527,991	7,713,855	0	5,714,862
基本財産評価損益等										
特定資産評価損益等										
投資有価証券評価損益等										
評価損益等計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
当期経常増減額	△ 10,026,435	△ 8,776,575	△ 2,578,005	△ 1,016,087	20,926,100	△ 1,471,002	△ 527,991	7,713,855	0	5,714,862
2．経常外増減の部										
(1)経常外収益										
受取給付金								2,000,000		2,000,000
経常外収益計	0	0	0	0	0	0	0	2,000,000	0	2,000,000
(2)経常外費用										
経常外費用計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0	0	2,000,000	0	2,000,000
他会計振替前当期一般正味財産増減額	△ 10,026,435	△ 8,776,575	△ 2,578,005	△ 1,016,087	20,926,100	△ 1,471,002	△ 527,991	9,713,855	0	7,714,862
他会計振替額	0	0	0	0		0		0	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 10,026,435	△ 8,776,575	△ 2,578,005	△ 1,016,087	20,926,100	△ 1,471,002	△ 527,991	9,713,855	0	7,714,862
一般正味財産期首残高						76,787,686	3,130,830	112,363,769	0	192,282,285
一般正味財産期末残高						75,316,684	2,602,839	122,077,624	0	199,997,147
Ⅱ 指定正味財産増減の部										
受取補助金	0	6,500,000	0	0	0	6,500,000	0	0	0	6,500,000
受取寄付金	780,000		0	0	0	780,000	0	3,000,000	0	3,780,000
一般正味財産への振替額	△ 10,207,950	△ 7,850,450	0	0	0	△ 18,058,400	0	0	0	△ 18,058,400
当期指定正味財産増減額	△ 9,427,950	△ 1,350,450	0	0	0	△ 10,778,400	0	3,000,000	0	△ 7,778,400
指定正味財産期首残高	10,207,950	1,350,450	0	0	0	11,558,400	0	0	0	11,558,400
指定正味財産期末残高	780,000	0	0	0	0	780,000	0	3,000,000	0	3,780,000
Ⅲ 正味財産期末残高						76,096,684	2,602,839	125,077,624	0	203,777,147

財務諸表に対する注記

1．重要な会計方針

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

満期保有目的の債券については，原価法によっている．

(2) 棚卸資産の評価基準及び評価方法

貯蔵品は1冊を1円として評価している．

(3) 固定資産の減価償却の方法

定額法による．

(4) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は，税込方式によっている．

2．基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は次のとおりである．

特定資産　（単位:円）

科　　目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
薬理学基金	50,000,000	0	0	50,000,000
国際基金	1,632,338	10,000,000	0	11,632,338
振興基金				
学術講演基金	14,117,149	0	0	14,117,149
刊行基金	15,782,824	0	0	15,782,824
褒賞基金	12,004,589	0	0	12,004,589
年会運営資産	10,110,000	780,000	10,110,000	780,000
部会運営資産	97,950	0	97,950	0
国際情報発信強化資産	1,350,450	6,500,000	7,850,450	0
百周年記念積立資産	2,000,000	5,000,000	0	7,000,000
合　　計	107,095,300	22,280,000	18,058,400	111,316,900

3．基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は次のとおりである．

特定資産　（単位:円）

科　　目	当期末残高	(うち指定正味財産からの充当額)	(うち一般正味財産からの充当額)	(うち負債に対応する額)
薬理学基金	50,000,000	－	(50,000,000)	－
国際基金	11,632,338	－	(11,632,338)	－
振興基金				
学術講演基金	14,117,149	－	(14,117,149)	－
刊行基金	15,782,824	－	(15,782,824)	－
褒賞基金	12,004,589	－	(12,004,589)	－
年会運営資産	780,000	(780,000)		－
百周年記念積立資産	7,000,000	(3,000,000)	(4,000,000)	
合　　計	111,316,900	(3,780,000)	(107,536,900)	(　－　)

4．固定資産の取得価額，減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額，減価償却累計額及び当期末残高は，次のとおりである．

（単位:円）

科目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
ソフトウエア	8,282,800	6,486,966	1,795,834
合　　計	8,282,800	6,486,966	1,795,834

5．満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価および評価損益

満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価および評価損益は，次のとおりである．

（単位：円）

種類及び銘柄	帳簿価額	時　価	評価損益
社債・第10回みずほフィナンシャルグループ社債	30,296,100	30,049,200	246,900
社債・三井トラストHD㈱第3回無担保社債	30,523,200	30,159,000	364,200
合　　計	60,819,300	60,208,200	611,100

6．補助金等の内訳並びに交付者，当期の増減額及び残高

補助金等の内訳並びに交付者，当期の増減額及び残高は，次のとおりである．

（単位：円）

補助金等の名称	交付者	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高	貸借対照表上の記載区分
国際情報発信強化補助金	日本学術振興会	1,350,450	6,500,000	7,850,450	0	指定正味財産
札幌市コンベンション誘致促進助成金（第94回年会）	(公財)札幌国際プラザ	0	2,000,000	2,000,000	0	
ハイブリッドコンベンション助成金（第94回年会）	(公財)札幌国際プラザ	0	1,000,000	1,000,000	0	
招へい助成金（第94回年会）	(公財)伊藤医薬学術交流財団	0	150,000	150,000	0	
学会等開催助成金（第139回近畿部会）	(公財)大幸財団	0	70,000	70,000	0	
学会担当補助金（第74回西南部会）	久留米大学医学部	0	200,000	200,000	0	
ハイブリッド開催補助金（第74回西南部会）	(公財)久留米観光コンベンション国際交流協会	0	100,000	100,000	0	
合　　計		1,350,450	10,020,000	11,370,450	0	

7．指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳

指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳は，次のとおりである．

（単位：円）

内　容	金　額
経常収益への振替額	
目的達成による指定解除（受取補助金）	7,850,450
目的達成による指定解除（受取寄付金）	10,207,950

8．資産除却債務関係

事務局の不動産賃貸借契約に基づき，オフィス退去時における現状回復に係る債務を有しているが，当該債務に関連する賃借資産の使用期間が明確でなく，当面事務局を移転する予定もないことから，資産除却債務を合理的に見積もることができない．そのため，当該債務に見合う資産除却債務を計上していない．

附 属 明 細 書

1．基本財産及び特定資産の明細

財務諸表に対する注記２．に記載のとおりである．

2．引当金の明細

該当なし．

財 産 目 録

令和3年12月31日現在

（単位:円）

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金 額
（流動資産）	現　　金	手元保管	運転資金として	516,115
	預　貯　金	普通預金・三菱UFJ銀行本郷支店	運転資金として	22,841,299
		普通預金・みずほ銀行本郷支店	運転資金として	14,615,328
		ゆうちょ銀行定期貯金	運転資金として	11,000,000
		ゆうちょ銀行通常貯金	運転資金として	28,794,352
		ゆうちょ銀行振替貯金	運転資金として	15,631,877
			＜現金・預貯金計＞	**93,398,971**
	未 収 入 金	収納代行会社	会費収納代行会社の年度末の残高である	833,000
		学術評議員会費（90名分）	同　上	1,171,000
		購 読 料	刊行事業の未収分である	467,100
		論文別刷料	同　上	149,380
		ﾊﾞｯｸﾅﾝﾊﾞｰ売上金	既刊雑誌の売上未収分である	4,050
		学術集会賛助金等	学術集会賛助金の未収分等である	200,006
			＜未収入金計＞	**2,824,536**
	前　払　金	第95回年会	年会開催事業への学会交付金である	1,900,000
		第96回年会	年会開催事業への学会交付金である	1,900,000
		JPW年会会場予約金	年会開催の会場予約金である	1,180,811
		その他前払金	社債の経過利息である	80,671
			＜前払金計＞	**5,061,482**
	貯　蔵　品	既刊誌（2020，2021年）	既刊雑誌の在庫数である	3,390
			＜貯蔵品計＞	**3,390**
流 動 資 産 合 計				**101,288,379**
（固定資産） 特 定 資 産	薬理学基金	定期預金・三菱UFJ銀行本郷支店	運用益を公益目的事業と管理目的の財源として使用している（うち公益目的保有財産50%）	40,000,000
		定期預金・みずほ銀行本郷支店		10,000,000
			＜薬理学基金計＞	**50,000,000**
	国際基金	投資有価証券	海外の学会との連携事業の原資である（公益目的保有財産）	11,632,338
			＜国際基金計＞	**11,632,338**
	振興基金			
	学術講演基金	投資有価証券	科研費補助金を受けないで開催する市民公開講座，及び次世代薬理学セミナー開催事業等の原資である(公益目的保有財産)	14,117,149
			＜学術講演基金計＞	**14,117,149**
	刊行基金	投資有価証券	刊行事業，薬理学に関する研究及び調査事業の原資である（公益目的保有財産）	15,782,824
			＜刊行基金計＞	**15,782,824**
	褒賞基金	投資有価証券	研究業績を表彰する事業の原資である（公益目的保有財産）	12,004,589
			＜褒賞基金計＞	**12,004,589**
	年会運営資産	投資有価証券	年会の寄付金である	780,000
			＜年会運営資産＞	**780,000**
	百周年記念積立資産	投資有価証券	百周年記念事業の積立金である（特定費用準備資金）	5,000,000
		ゆうちょ銀行定期貯金		2,000,000
			＜百周年記念積立資産＞	**7,000,000**
			＜特定資産合計＞	**111,316,900**

その他固定資産	ソフトウェア	会員管理システム	公益目的事業及び管理目的に使用している	1,795,834
			うち公益目的事業に使用	1,227,600
			うちその他の事業に使用	265,834
			うち管理目的に使用	302,400
	電話加入権	電話回線 2台	公益目的保有財産であり，公益目的事業に使用している	2
	保証金	㈱学会センタービル	(共用財産)	1,572,000
			うち公益目的保有財産25%	393,000
			うち管理目的として使用する財産75%	1,179,000
	投資有価証券	大和証券	公益目的事業及び管理目的事業に使用する目的で保有している	751,200
		三菱UFJモルガンスタンレー証券		751,200
			＜その他固定資産計＞	4,870,236
固定資産合計				116,187,136
資産合計				217,475,515
(流動負債)	前受金	2022年一般会員会費(6名分)	公益目的事業及び管理目的の業務に使用する次年度の会費である.	38,000
		2022年学術評議員会費(8名分)		120,000
		参加登録費	第95回年会の参加登録費である	7,056,000
			＜前受金計＞	7,214,000
	未払金	給与等	職員の給与等である	566,465
		代理店委託費	学会誌の代理店委託費である	350,455
		業務委託費等	刊行事業の業務委託費及び会計監査費用等である	4,684,359
		消耗品費等	刊行事業の消耗品費等である	197,511
		消費税	当年度未払消費税である	350,000
			＜未払金計＞	6,148,790
	預り金	学術集会謝金等源泉所得税	学術集会開催事業の謝金等の源泉所得税である	249,054
		その他預り金	その他の預り金である	86,524
			＜預り金計＞	335,578
流動負債合計				13,698,368
(固定負債)				0
固定負債合計				0
負債合計				13,698,368
正味財産				203,777,147

Ⅲ．令和４年度事業計画

日本薬理学会は，薬理学を基礎から臨床応用までを一体としてカバーする学問領域として捉え，これまで果たしてきた役割を確認し，21 世紀における薬理学の identity を確立するために，会員の皆様と一緒に学会活動を積極的に続けています．

具体的に以下の項目を積極的に推進していきます．

1) 創薬に携わっている企業の研究者とアカデミアの研究者のインターフェースの役割を果たしていますが，さらに「オープンイノベーション活動」を発展させてまいります．

2) 薬理学における高度な教育技術を持った会員であることを日本薬理学会が保証する「薬理学エデュケーター認定制度」により，薬の適正使用と啓蒙において優れた教育能力を備えた人材を社会に送り出してまいります．

3) デジタル・トランスフォーメーション（DX）を推進し、学術集会や会議などの効率的な運用のための基盤を構築します．

4) 英文誌「Journal of Pharmacological Sciences」がオープンジャーナルとして極めて高い水準に達したことからなお一層の努力を続け，世界中に情報を発信してまいります．

5) 和文誌「日本薬理学雑誌」が日本国内の創薬科学の総説誌として高い評価を得ておりますことから，日本中に情報を発信してまいります．

6) 今後の中期的目標として，日本薬理学会創立 100 周年を迎える 2027 年に向けて記念事業の企画および準備を進めてまいります．

7) 日本国内外の学会との連携を強めていきます．アジアの中で中心的な役割を担う存在であることを認識して世界各国の薬理学会，そして IUPHAR（International Union of Basic and Clinical Pharmacology）との国際的連携を発展させてまいります．

公益社団法人としてのメリットを生かし,本会の更なる発展を目指すために会員の皆様のご理解と一層のご支援ご協力をお願いいたします．

理事長　谷内　一彦

１　薬理学研究の進展及び薬理学研究者育成のための学術集会及び講演会等の開催事業（公益目的事業 1）

(1) 年会の開催

・第 95 回 日本薬理学会年会　　年会長：宮田　篤郎（鹿児島大学･院医歯）
2022 年 3 月 7 日～9 日　福岡国際会議場・福岡サンパレス

・第 96 回 日本薬理学会年会（第 43 回日本臨床薬理学会学術総会と同時開催）
年会長：安西　尚彦（千葉大学･院医）
2022 年 11 月 30 日～12 月 3 日　パシフィコ横浜

(2) 地方部会の開催

5 回の地方部会を開催する．

・第 146 回 日本薬理学会関東部会　　部会長：戸村　裕一（アステラス製薬㈱）
2022 年 6 月 18 日　オンライン開催

・第 141 回 日本薬理学会近畿部会　　部会長：西山　　成（香川大学･医）
2022 年 7 月 1 日　オンライン開催

・第 73 回 日本薬理学会北部会　　部会長：佐藤　久美（北海道科学大学･薬）
2022 年 9 月 17 日

・第 75 回 日本薬理学会西南部会　　部会長：齊藤　源顕（高知大学･医）
2022 年 10 月 1 日

・第 142 回 日本薬理学会近畿部会　　部会長：杉浦　麗子（近畿大学･薬）
2022 年 11 月 12 日　近畿大学東大阪キャンパス

(3) 市民公開講座の開催

科学的で正確な薬理学的知識に基づいて，薬物に関する正しい知識を国民に対して広めること及び薬理学の社会的重要性を国民に広く知ってもらうための啓発活動の一環として年会，地方部会と連動して市民公開講座を開催する予定である．

・公開講座（第 95 回年会）　2022 年 3 月 6 日　テーマ：「くすりとスポーツ」　JR 博多駅会議室

・第 75 回西南部会と連携して開催する他に，2 回の開催を予定している．

(4) 次世代薬理学セミナーの開催

日本の薬理学研究の活性化及び国際プレゼンスの向上のため，意欲と能力のある若手を育成し，学会活動への積極的な参画を促すため，若手研究者による若手研究者を対象の次世代薬理学セミナーを開催する．Web 配信により全会員が無料で視聴で

きる．2022 年は第 73 回北部会，第 75 回西南部会に合わせて 2 回の開催を予定している．

(5) 看護薬理学カンファレンス 2022 の開催

第 95 回年会前日（2022 年 3 月 6 日），第 75 回西南部会（2022 年 10 月 1 日）および第 96 回年会会期中（2022 年 12 月 3 日）の 3 回開催予定．全国から参加者を募るため，オンラインと現地のハイブリッド開催を予定している．

2　薬理学に関する学理及び応用の研究についての知識の普及を目的とし，学会誌等を刊行する事業（公益目的事業 2）

(1) Journal of Pharmacological Sciences を全面電子体のオープンアクセス誌として刊行する．

・2022 年刊行予定：148 巻 1～4 号，149 巻 1～4 号，150 巻 1～4 号

(2) 日本薬理学雑誌（くすりとからだ／ファーマコロジカ）の刊行

・2022 年刊行予定：157 巻 1～6 号　計 6 冊

(3) 「薬理学へのいざない　～くすりのしくみをしろう～」パンフレットの作成．

3　優れた業績をあげた研究者の表彰及び研究の一層の飛躍を期待した研究奨励のために，各賞を設置し，研究者と研究業績を表彰する事業（公益目的事業 3）

(1) 江橋節郎賞

日本薬理学会名誉会員故江橋節郎先生の生命科学への貢献を末永く顕彰するため，江橋節郎賞を創設し，薬理学の進歩に貢献した研究者に授与している．第 15 回選考は「基礎」の研究領域で，推薦を受け付けた．

・第 15 回江橋節郎賞受賞者の受賞講演は，第 95 回年会会期中に行われる．

林 康紀（京都大学大学院医学研究科）

『海馬シナプス可塑性の分子機構』

・第 16 回江橋節郎賞は 5 月末日までに「臨床薬理学」の領域での募集を公告し，推薦締切は 8 月末日，江橋節郎賞選考委員会の選考を経て理事会で決定する．

(2) 学術奨励賞

薬理学の進歩に寄与する顕著な研究を発表し，将来発展の期待される研究者に学術奨励賞を授与する．

・第 37 回学術奨励賞受賞者 3 名の受賞講演は，第 95 回年会会期中に行われる．

葛巻　直子（星薬科大学・薬理学域・准教授）

『疾患 iPS 細胞分化誘導細胞の多次元的細胞特異的解析を応用した細胞特異的遺伝子改変疾患モデル動物による高感度リバーストランスレーショナル研究の確立』

篠原　亮太（神戸大学大学院・医学研究科・講師）

『神経回路の形成・可塑性のメカニズムと病態生理学的意義の解明』

原田　龍一（東北大学大学院・医学系研究科・助教）

『PET プローブを用いた神経病理画像化に関する研究』

・第 38 回学術奨励賞は 5 月末日までに募集を公告し，推薦の締切は 8 月末日，賞等選考委員会の選考を経た 3 件以内の候補者について理事会が決定する．

(3) JPS 優秀論文賞

JPS 優秀論文賞は，過去 3 年間に JPS に掲載された論文の中から選出されてきたが，2023 年の選考より，授賞年度の前年 1 年間に JPS に掲載された原著論文の中から選考し，その著者に授与する．移行期間として 2023 年度の授賞選考対象論文には 2020 年，2021 年出版分を含めることができる．2024 年度の授賞選考対象論文には，2021 年出版分を含めることができる．

・第 26 回 JPS 優秀論文賞受賞者及び第 27 回 JPS 優秀論文賞受賞者に賞状と副賞を授与する．

・第 28 回 JPS 優秀論文賞 3 編以内を決定する．

(4) 年会優秀発表賞

年会学術集会への優れた発表を促し，学問的情報発信の場としての役割を高めるために第 95 回及び第 96 回各年会で一般演題の中から優秀な発表に対して，それぞれ 10～20 件の年会優秀発表賞を授与する．

(5) 優秀査読者賞

Journal of Pharmacological Sciences の査読者の質を向上させ，掲載論文の国際的価値を高めることに資する目的で 5 名以内に JPS 優秀査読者賞を授与する．

４　薬理学及びわが国学術文化の進展・発展への寄与を目的とした，内外の関連学術団体との連携及び協力事業（公益目的事業 4）

(1) 日本学術会議との連携

日本学術会議協力学術研究団体として国際連携を推進する．日本学術会議の後援で第 95 回年会会期中にシンポジウムを開催する．

・日本学術会議後援シンポジウム　2022 年 3 月（第 95 回年会会期中）

『疾患の理解に向けた領域融合型研究基盤の構築』

(2) 生物科学学会連合との連携

加盟団体と情報を共有して「生物科学」の健全な発展に協力するために，定例会議に出席する．

(3) 日本脳科学関連学会連合との連携

加盟団体の一員として，脳科学の発展ならびに普及を通して社会への貢献に協力する．

(4) 国内の関連学術団体と連携して共催シンポジウム等を開催する．

・感覚研究コンソーシアムとの共催シンポジウム　2022 年 3 月 8 日（第 95 回年会会期中）

感覚研究の最前線：疾患治療と創薬に向けて

・歯科基礎医学会との共催シンポジウム　2022 年 3 月 7 日（第 95 回年会会期中）

RANKL 分子を介した骨代謝制御，その生理・病理・薬理

・日本腎臓学会との共催シンポジウム　2022 年 3 月 8 日（第 95 回年会会期中）

腎臓薬創薬シーズを解き明かす知・技術の融合

・日本生理学会，日本解剖学会との共催シンポジウム　2022 年 3 月 9 日（第 95 回年会会期中）

アロマセラピーの基礎と臨床　ー最新の進歩ー

・日本毒性学会との共催シンポジウム　2022 年 3 月 7 日（第 95 回年会会期中）

生活環境ならびに労働環境中の化学的因子による健康影響：環境毒性学と薬理学の視点から

・日本獣医薬理学・毒性学会との共催シンポジウム　2022 年 3 月 7 日（第 95 回年会会期中）

獣医療からヒト医療へ活きるバイオマーカーのトランスレーショナルリサーチ

(5) 海外の関連学術団体と連携して共催シンポジウム等を開催する．

・JPS-ASPET 講師交換プログラム（第 95 回年会会期中）

2022 年 3 月 9 日，福岡国際会議場

・第 24 回日韓薬理学合同セミナー（第 96 回年会会期中）

2022 年 12 月，パシフィコ横浜

・第 9 回日中薬理学・臨床薬理学 Joint Meeting.

2022 年に中国で開催予定

５　薬理学エデュケーター認定制度（その他の事業）

優れた薬理学教育者を育成・支援し，薬理学の知識の普及及び研究水準向上への貢献を目的として，薬理学エデュケーター認定事業を行っている．毎年，6 月 1 日から 30 日まで申請を受け付ける

６　その他

1　会　員

・2021 年度末の会員数は 2020 年度末の会員数 4,059 名から若干，減少する見込みである．

2　業務執行体制の整備と強化

・代表理事，業務執行理事，常置委員会委員長，年会長，次世代の会代表による拡大常務理事会を開催し，様々な課題に取り組み，理事会の業務執行に協力する．

3　社会に向けて

・コロナウイルスの状況をみながら，公開講座開催を再開する．，科学的で正確な薬理学的知識に基づいて，薬物に関する正しい知識を国民に対して広めること及び薬理学の社会的重要性を国民に広く知ってもらうための啓発活動を行う．

・倫理委員会規定を制定し，科学者の行動規範に反する不正行為の防止に取り組んでいる．

4　事務局体制について

・事務局の全面外部委託は，2021 年 3 月末で終了し，事務局は新規職員を採用し，自前の事務局で運営している．

Ⅳ. 令和4年度収支予算

令和4年度収支予算

令和4年1月1日から令和4年12月31日まで　　（単位:円）

	令和4年度予算額	令和3年度予算額	増　減	備　考
Ⅰ. 一般正味財産増減の部 1.経常増減の部 (1) 経常収益 ① 特定資産運用益	(100,000)	(10,000)	(90,000)	
基金運用益	100,000	10,000	90,000	
② 受取会費	(41,630,000)	(42,910,000)	(△ 1,280,000)	
1 一般会員会費	16,500,000	16,500,000	0	
2 学術評議員会費	17,000,000	17,500,000	△ 500,000	
3 賛助会員会費	8,130,000	8,910,000	△ 780,000	
③ 事業収益	(101,647,000)	(49,839,000)	(51,808,000)	
1 学術集会費収益	(93,617,000)	(41,299,000)	(52,318,000)	
参加登録費	39,220,000	18,810,000	20,410,000	
器械展示料・予稿集広告料	27,647,000	6,769,000	20,878,000	
懇親会費	5,140,000	2,300,000	2,840,000	
ランチョンセミナー	21,610,000	13,420,000	8,190,000	
2 購読料	(510,000)	(510,000)	(0)	
3 論文掲載料	(5,820,000)	(6,030,000)	(△ 210,000)	
4 論文別刷料	(700,000)	(700,000)	(0)	
5 広告掲載料	(1,000,000)	(1,300,000)	(△ 300,000)	
④ 受取補助金等	(8,750,000)	(14,519,824)	(△ 5,769,824)	
1 指定正味財産からの振替額	6,500,000	7,569,824	△ 1,069,824	
2 学術集会補助金	2,250,000	6,950,000	△ 4,700,000	
⑤ 受取寄付金	(23,740,000)	(17,250,000)	(6,490,000)	
1 指定正味財産からの振替額	0	100,000	△ 100,000	
2 学術集会賛助金	23,740,000	17,150,000	6,590,000	
⑥ 雑収益	(301,400)	(1,501,400)	(△ 1,200,000)	
受取利息等	301,400	1,501,400	△ 1,200,000	
経常収益計	**176,168,400**	**126,030,224**	**50,138,176**	
(2) 経常費用				
① 事業費	(171,061,751)	(120,328,614)	(50,733,137)	
給料手当	4,160,000	0	4,160,000	
法定福利費	700,000	0	700,000	
事務所借料	2,136,456	1,463,880	672,576	
会場費	75,564,006	36,597,220	38,966,786	
旅費・通信交通費	9,410,450	6,231,000	3,179,450	
印刷費	11,301,400	10,865,000	436,400	
会議費	8,941,125	3,687,650	5,253,475	
謝金・その他	13,477,411	14,584,730	△ 1,107,319	
懇親会費	6,145,000	2,300,000	3,845,000	
編集刊行費	11,400,000	12,000,000	△ 600,000	
国際情報発信強化費	6,500,000	7,569,824	△ 1,069,824	
学術事業協力費	350,000	450,000	△ 100,000	
副　賞	1,800,000	1,800,000	0	
消耗品費	100,000	350,000	△ 250,000	
業務委託費	17,245,743	20,499,150	△ 3,253,407	
減価償却費	1,030,160	1,030,160	0	
租税公課	800,000	400,000	400,000	
雑　費	0	500,000	△ 500,000	

	令和4年度予算額	令和3年度予算額	増　減	備　考
②　管理費	(　18,114,728)	(　14,030,568)	(　4,084,160)	
給料手当	4,340,000	0	4,340,000	
法定福利費	300,000	0	300,000	
中退共掛金	120,000	0	120,000	
事務所借料	915,624	627,000	288,624	
臨時雇賃金	0	500,000	△ 500,000	
旅費・通信交通費	2,500,000	2,500,000	0	
印刷費	300,000	300,000	0	
会議費	700,000	700,000	0	
リース料	76,704	222,168	△ 145,464	
消耗品費	1,000,000	1,000,000	0	
支払手数料	1,600,000	1,600,000	0	
慶弔費	500,000	500,000	0	
業務委託費	5,040,000	5,280,000	△ 240,000	
租税公課	20,000	20,000	0	
減価償却費	302,400	581,400	△ 279,000	
選挙費	200,000	0	200,000	
雑　費	200,000	200,000	0	
経常費用計	**189,176,479**	**134,359,182**	**54,817,297**	
評価損益等調整前当期経常増減額	**△ 13,008,079**	**△ 8,328,958**	**△ 4,679,121**	
基本財産評価損益等				
特定資産評価損益等				
投資有価証券評価損益等				
評価損益等計				
当期経常増減額	△ 13,008,079	△ 8,328,958	△ 4,679,121	
2.　経常外増減の部				
(1)経常外収益				
経常外収益計	0	0	0	
(2)経常外費用				
経常外費用計	0	0	0	
当期経常外増減額	0	0	0	
当期一般正味財産増減額	△ 13,008,079	△ 8,328,958	△ 4,679,121	
一般正味財産期首残高	183,953,327	192,282,285	△ 8,328,958	
一般正味財産期末残高	**170,945,248**	**183,953,327**	**△ 13,008,079**	
Ⅱ　指定正味財産増減の部 ①　受取補助金			0	
受取補助金 ② 受取寄付金	6,500,000	6,500,000	0	
受取寄付金 ③ 一般正味財産への振替額	0	100,000	△ 100,000	
一般正味財産への振替額	△ 6,500,000	△ 7,669,824	1,169,824	
当期指定正味財産増減額	△ 9,538,126	△ 1,069,824	△ 8,468,302	
指定正味財産期首残高	10,488,576	11,558,400	△ 1,069,824	
指定正味財産期末残高	**950,450**	**10,488,576**	**△ 9,538,126**	
Ⅲ　正味財産期末残高	**171,895,698**	**194,441,903**	**△ 22,546,205**	

令和4年度収支予算書

令和4年1月1日から令和4年12月31日まで

（単位：円）

	公益目的事業会計（内訳表）						収益事業等会計	法人会計	内部取引等消去	合　計
	公1 学術集会等開催	公2 刊　行	公3 褒　賞	公4 連　携	共通	小計	他1 エデュケーター			
Ⅰ一般正味財産増減の部										
1．経常増減の部										
(1)経常収益										
①　特定資産運用益	0	0	0	0	50,000	50,000	0	50,000		100,000
基金受取利息					50,000	50,000		50,000		100,000
②　受取会費	0	0	0	0	20,815,000	20,815,000	0	20,815,000		41,630,000
1　一般会員会費					8,250,000	8,250,000		8,250,000		16,500,000
2　学術評議員会費					8,500,000	8,500,000		8,500,000		17,000,000
3　賛助会員会費					4,065,000	4,065,000		4,065,000		8,130,000
③　事業収益	96,487,000	5,160,000	0	0	0	101,647,000	0	0		101,647,000
1　学術集会費収益	93,617,000	0	0	0	0	93,617,000	0	0		93,617,000
参加登録費	39,220,000					39,220,000		0		39,220,000
器械展示料 予稿集広告料	27,647,000					27,647,000		0		27,647,000
懇親会費	5,140,000					5,140,000		0		5,140,000
ランチョンセミナー	21,610,000					21,610,000		0		21,610,000
2　購読料	0	510,000	0	0	0	510,000		0		510,000
購読料		510,000				510,000		0		510,000
3　論文掲載料	2,870,000	2,950,000	0	0	0	5,820,000		0		5,820,000
和文誌掲載料		2,800,000				2,800,000		0		2,800,000
英文誌掲載料		150,000				150,000		0		150,000
演題登録料	2,870,000					2,870,000		0		2,870,000
4　論文別刷料	0	700,000	0	0	0	700,000		0		700,000
別刷料		400,000				400,000		0		400,000
著作権等使用料		300,000				300,000		0		300,000
5　広告掲載料	0	1,000,000	0	0	0	1,000,000		0		1,000,000
広告掲載料		1,000,000				1,000,000		0		1,000,000
④　受取補助金等	2,250,000	6,500,000	0	0	0	8,750,000	0	0		8,750,000
1 指定正味財産からの振替額		6,500,000				6,500,000		0		6,500,000
2 学術集会補助金	2,250,000					2,250,000		0		2,250,000
⑤　受取寄付金	23,740,000	0	0	0	0	23,740,000	0	0		23,740,000
1 指定正味財産からの振替額	0					0		0		0
学術集会賛助金	23,740,000					23,740,000		0		23,740,000
⑥　雑収益	0	0	0	0	700	700	300,000	700		301,400
受取利息等					700	700	300,000	700		301,400
経常収益計	122,477,000	11,660,000	0	0	20,865,700	155,002,700	300,000	20,865,700		176,168,400
(2)経常費用						0				
①　事業費	136,729,277	20,317,812	3,789,454	2,962,604	6,530,000	170,329,147	732,604	0	0	171,061,751
1　給料手当	2,950,000	210,000	580,000	210,000		3,950,000	210,000			4,160,000
2　法定福利費	400,000	150,000	50,000	50,000		650,000	50,000			700,000
3　事務所借料	1,220,832	457,812	152,604	152,604		1,983,852	152,604			2,136,456
4　会場費	75,564,006					75,564,006				75,564,006
5　旅費・通信交通費	6,750,450	800,000	500,000	1,350,000		9,400,450	10,000			9,410,450
6　印刷費	11,131,400				170,000	11,301,400				11,301,400
7　会議費	8,591,125	200,000	150,000			8,941,125				8,941,125
8　謝金・その他	10,070,561		556,850	850,000	2,000,000	13,477,411				13,477,411
9　懇親会費	6,145,000					6,145,000				6,145,000
10　編集・刊行費		11,400,000				11,400,000				11,400,000

	公益目的事業会計(内訳表)						収益事業等会計	法人会計	内部取引等消去	合 計
	公1 学術集会等開催	公2 刊 行	公3 褒 賞	公4 連 携	共通	小計	他1 ｴﾃﾞｭｹｰﾀｰ			
11 国際情報発信強化費		6,500,000				6,500,000				6,500,000
12 学術事業協力費				350,000		350,000				350,000
13 副 賞			1,800,000			1,800,000				1,800,000
14 消耗品費		100,000				100,000				100,000
15 業務委託費	12,185,743	500,000			4,360,000	17,045,743	200,000			17,245,743
16 減価償却費	920,160					920,160	110,000			1,030,160
17 租税公課	800,000					800,000				800,000
② 管理費								18,114,728	0	18,114,728
1 給料手当								4,340,000		4,340,000
2 法定福利費								300,000		300,000
3 中退共掛金								120,000		120,000
4 事務所借料								915,624		915,624
5 旅費･通信交通費								2,500,000		2,500,000
6 印刷費								300,000		300,000
7 会議費								700,000		700,000
8 リース料								76,704		76,704
9 消耗品費								1,000,000		1,000,000
10 支払手数料								1,600,000		1,600,000
11 慶弔費								500,000		500,000
12 業務委託費								5,040,000		5,040,000
13 租税公課								20,000		20,000
14 減価償却費								302,400		302,400
15 選挙費								200,000		200,000
16 雑 費								200,000		200,000
経常費用計	136,729,277	20,317,812	3,789,454	2,962,604	6,530,000	170,329,147	732,604	18,114,728	0	189,176,479
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 14,252,277	△ 8,657,812	△ 3,789,454	△ 2,962,604	14,335,700	△ 15,326,447	△ 432,604	2,750,972	0	△ 13,008,079
基本財産評価損益等	0	0	0	0	0	0	0	0		
特定資産評価損益等	0	0	0	0	0	0	0	0		
投資有価証券評価損益等	0	0	0	0	0	0	0	0		
評価損益等計	0	0	0	0	0	0	0	0		
当期経常増減額	△ 14,252,277	△ 8,657,812	△ 3,789,454	△ 2,962,604	14,335,700	△ 15,326,447	△ 432,604	2,750,972	0	△ 13,008,079
2. 経常外増減の部										
(1)経常外収益										
中科目別記載										
経常外収益計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(2)経常外費用										
中科目別記載										
経常外費用計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
他会計振替前当期一般正味財産増減額	△ 14,252,277	△ 8,657,812	△ 3,789,454	△ 2,962,604	14,335,700	△ 15,326,447	△ 432,604	2,750,972	0	△ 13,008,079
他会計振替額						0		0		0
当期一般正味財産増減額	△ 14,252,277	△ 8,657,812	△ 3,789,454	△ 2,962,604	14,335,700	△ 15,326,447	△ 432,604	2,750,972	0	△ 13,008,079
一般正味財産期首残高						68,458,728	3,130,830	112,363,769	0	183,953,327
一般正味財産期末残高	△ 14,252,277	△ 8,657,812	△ 3,789,454	△ 2,962,604	14,335,700	53,132,281	2,698,226	115,114,741	0	170,945,248
Ⅱ 指定正味財産増減の部										
受取補助金		6,500,000				6,500,000		0		6,500,000
受取寄付金						0				0
一般正味財産への振替額		△ 6,500,000				△ 6,500,000		0		△ 6,500,000
当期指定正味財産増減額	△ 10,207,950	△ 400,000				△ 10,607,950		0		△ 10,607,950
指定正味財産期首残高	10,207,950	1,350,450	0	0	0	11,558,400	0	0		11,558,400
指定正味財産期末残高	0	950,450				950,450		0		950,450
Ⅲ 正味財産期末残高	△ 14,252,277	△ 7,707,362	△ 3,789,454	△ 2,962,604	14,335,700	△ 14,375,997	2,698,226	115,114,741	0	171,895,698

Ⅴ．名誉会員候補者一覧（令和４年度）

理事会は，名誉会員推薦規定第２条第１項第１号 b）及び同運用基準第２項第１号，第２号に該当すると判断し，次の９氏を推薦いたします．

令和４年４月１日現在，氏名五十音順

氏名 （所属）	年齢 正会員歴	薬理学への功績	本会の 発展への功績
石井　邦明 （山形大学医学部）	66 歳 39 年	心筋イオンチャネルの構造機能相関ならびに質的・量的修飾機構に関する研究	理　事４年 委　員 12 年 部会長
木村　英雄 （山口東京理科大学薬学部）	65 歳 21 年	シグナル分子としての硫化水素とポリサルファイドを発見した	理　事２年 委　員２年
五嶋　良郎 （横浜市立大学医学部）	65 歳 38 年	薬理学分野における優れた研究実績と日本薬理学会会員としての活発な学会活動等	理　事４年 委　員８年 年会長，部会長
笹栗　俊之 （九州大学大学院医学研究院）	65 歳 28 年	細胞性粘菌分化誘導因子 DIF の抗がん効果について研究し，その作用機序を解明して創薬の基盤を作った	理　事２年 監　事２年 委　員 13 年 部会長，副年会長
關野　祐子 （東京大学大学院薬学系研究科）	65 歳 22 年	レギュラトリーサイエンス分野に薬理学を導入し，ヒト iPS 細胞を使った医薬品安全性試験法を確立し国際標準化に貢献した	監　事２年 委　員２年
西堀　正洋 （岡山大学大学院医歯薬学総合研究科）	66 歳 42 年	抗 HMGB1 抗体を用いたトランスレーショナル研究と敗血症病態の新規学説の提案	理　事４年 委　員８年 部会長
松木　則夫 （東京大学）	70 歳 47 年	記憶・学習および神経可塑性の包括的な解明	理事長２年 理　事 10 年 委　員 31 年 年会長
宮田　篤郎 （鹿児島大学大学院医歯学総合研究科）	65 歳 22 年	下垂体アデニル酸シクラーゼ活性化ペプチドの発見から臨床応用までの一連の研究による多大な貢献をなした	理事　６年 委員　21 年 年会長，部会長
矢部　千尋 （京都工場保健会総合医学研究所）	66 歳 42 年	新しい作用点の薬物開発を目指し，諸種の病態モデルを用いて薬物標的となる分子の機能を臓器横断的に解析した	理　事８年 委　員 22 年 部会長

「名誉会員推薦規定」（抜粋）

（資　格）

第２条 名誉会員として推薦することができる者は，次の各号のいずれかに該当する者とする．

(1) 本会の正会員として 20 年以上在籍し，年齢 65 才以上の，役員または常置委員在任中ではない者で，かつ次の事項のいずれかに該当する者

a）薬理学の研究分野において特に学術上の功績が大である者

b）薬理学及び本会の発展に功績が顕著である者

(2) 非会員のうち，薬理学における学術上の功績が大であり，かつ特に本会の発展に功績が顕著である者

2　前項第１号の正会員歴の算定にあたり，理事会は特別の考慮を払うことができる．

3　第１項第１号にかかわらず，理事会は特段の審議を行い，学術上の功績が特に顕著であった正会員を名誉会員に推薦することができる．

「名誉会員推薦規定運用基準」（抜粋）

2. 名誉会員推薦規定第２条第１号 b）の「本会の発展に功績が顕著である者」は，以下の各号のいずれかの者とする．

(1) 理事，監事又は年会長を経験した者

(2) 常置委員会及び特別委員会の委員等を通算 10 年以上経験した者

Ⅵ. 永年会員候補者一覧（令和４年度）

理事会は，永年会員推薦規定第２条 及び 同運用基準第１項に該当すると判断し，次の８氏を推薦いたします．

令和４年４月１日現在，氏名五十音順

氏名／所属歴		年齢	学術評議員歴	正会員歴	適用運用基準
小野寺憲治	横浜薬科大学 ／疾病薬学研究所	70 歳	38 年		第１号
戸苅　彰史	愛知学院大学	70 歳	34 年		第１号
石川　直久	アダプトゲン製薬㈱ ／愛知医科大学	74 歳	－	50 年	第２号
石田　行知	東京都立大学	73 歳	－	50 年	第２号
七戸　和博	日本医科大学 ／東京医科歯科大学	74 歳	－	50 年	第２号
篠原　光子	大阪歯科大学	74 歳	－	50 年	第２号
中神　啓仁	(国研)科学技術振興機構 ／エイコー㈱ふたば薬局	73 歳	－	50 年	第２号
渡邉　泰雄	東京医科大学 ／横浜薬科大学総合健康ﾒﾃﾞｨｶﾙｾﾝﾀｰ	74 歳	－	50 年	第２号

永年会員推薦規定（抜粋）

第２条　永年会員として推薦することができる者は，年齢 70 才以上であり，かつ別に定める永年会員推薦規定運用基準に該当する者とする．

永年会員推薦規定運用基準（抜粋）

1. 永年会員推薦規定第２条に基づき，理事会が永年会員に推薦する者は，次の各号のいずれかに該当しなければならない．
   (1) 本会の学術評議員としての経歴が 30 年以上あり，かつ，部会長，常置委員会委員，特別委員会委員，Journal of Pharmacological Sciences の Editor 又は日薬理誌の編集委員として本会の発展に貢献した者
   (2) 本会の正会員として 50 年以上在籍した者

Ⅶ. 部会選出新常置委員会委員一覧

2022，2023 年度

部会選出新常置委員一覧

（委員は五十音順，次点者は得票順）

北部会	関東部会	近畿部会	西南部会
小原祐太郎	赤羽　悟美	吾郷由希夫	香月　博志
久米　利明	安西　尚彦	石澤　啓介	首藤　　剛
平　　英一	石川　智久	大野　行弘	武田　泰生
新田　淳美	諫田　泰成	大矢　　進	津田　　誠
守屋　孝洋	木内　祐二	金子　周司	柳田　俊彦
若森　　実	黒川　洵子	田熊　一敞	山口　　拓
	三枝　　禎	土屋浩一郎	
	坂本　謙司	冨田　修平	
	杉山　　篤	西山　　成	
	成田　　年	橋本　　均	
	三澤日出巳	森岡　徳光	
	村松里衣子	山村　寿男	
次点者	次点者	次点者	次点者
丹野　孝一	石毛久美子	金井　好克	岩本　隆宏
日比野　浩	辻　　稔	古屋敷智之	西　　昭徳
南　　雅文	廣瀬　謙造	池田　康将	池田　龍二
谷村　明彦	池谷　裕二	高井　真司	高橋　富美
東田　千尋	茶木　茂之	北村　佳久	齊藤　源顕
久場　敬司	小泉　修一	永井　　拓	西田　基宏
	上園　保仁	金田　勝幸	
	山田　充彦	北市　清幸	

Ⅷ. 規則の変更

変　更

常置委員会規定

現　行	変　更
（議事録の提出） 第 10 条　議長は議事録を作成し，議長及び議長の指名した出席委員の代表２名以上が署名押印の上，これをすみやかに理事長に提出しなければならない．	（議事録の提出） 第 10 条　議長は議事録を作成し，議長及び議長の指名した出席委員の代表２名以上が署名（電子署名可）の上，これをすみやかに理事長に提出しなければならない． 附　則：本規定は令和３年 11 月 25 日より施行する．

年会学術企画委員会規定

現　行	変　更
（議事録の提出） 第７条　委員長は，議事録を作成し，委員長及び委員長の指名した出席委員の代表２名以上が署名押印の上，これをすみやかに理事長に提出しなければならない．	（議事録の提出） 第７条　委員長は，議事録を作成し，委員長及び委員長の指名した出席委員の代表２名以上が署名（電子署名可）の上，これをすみやかに理事長に提出しなければならない． 附　則：本規定は令和３年 11 月 25 日より施行する．

賞等選考委員会規定

現　行	変　更
（議事録の提出） 第８条　委員長は，議事録を作成し，委員長及び委員長の指名した出席委員の代表２名以上が署名押印の上，これをすみやかに理事長に提出しなければならない．	（議事録の提出） 第８条　委員長は，議事録を作成し，委員長及び委員長の指名した出席委員の代表２名以上が署名（電子署名可）の上，これをすみやかに理事長に提出しなければならない． 附　則：本規定は令和３年 11 月 25 日より施行する．

江橋賞選考委員会規定

現　行	変　更
（議事録の提出） 第８条　委員長は，議事録を作成し，委員長及び委員長の指名した出席委員の代表２名以上が署名押印の上，これをすみやかに理事長に提出しなければならない．	（議事録の提出） 第８条　委員長は，議事録を作成し，委員長及び委員長の指名した出席委員の代表２名以上が署名（電子署名可）の上，これをすみやかに理事長に提出しなければならない． 附　則：本規定は令和３年 11 月 25 日より施行する．

倫理委員会規定

現　行	変　更
（議事録及び審査記録） 第 13 条　委員長は，議事録及び審査記録を作成し，委員長及び委員長の指名した出席委員の代表２名が署名・押印する．	（議事録及び審査記録） 第 13 条　委員長は，議事録及び審査記録を作成し，委員長及び委員長の指名した出席委員の代表２名が署名（電子署名可）する． 附　則：本規定は令和３年 11 月 25 日より施行する．

COI 自己申告様式（様式３）

現　行	変　更
申告日（西暦）　　年　　月　　日 申告者署名　　印 受付番号：	申告日（西暦）　　年　　月　　日 申告者署名 受付番号：

Ⅸ.　理事会等報告

理 事 長：谷内 一彦　　以上　1名
理　　事：赤羽 悟美，安西 尚彦，石井 邦明，石川 智久，上原　　孝，金子 周司，諫田 泰成，吉川　公平，
小泉 修一，五嶋 良郎，杉山　　篤，津田　　誠，戸村　裕一，西堀 正洋，原　　英彰，古屋敷智之，
南　　雅文，宮田 篤郎，矢部 千尋　　以上 19 名
監　　事：笹栗 俊之，関野 祐子　　以上　2名
ｵﾌﾞｻﾞｰﾊﾞｰ：金井 好克　　以上　1名

1.理事会構成について
9 月 7 日に理事会のオブザーバーで前理事長の吉岡 充弘教授が逝去された.
2021 年度は，谷内 一彦理事長，安西 尚彦総務委員長，赤羽 悟美財務委員長，小泉 修一編集委員長の各常務理事，企業所属理事，公的研究機関所属理事，女性理事の 20 名で理事会が運営された．監事は理事の業務執行を監査するため全ての理事会に出席した．金井 好克国際対応委員長がオブザーバーとして，理事会運営を支援し，理事会の継続性担保のため，第 3 回理事会より次期役員候補者がオブザーバーに加わった.

2. 学会の運営方針について
薬理学を基礎から臨床応用までを一体としてカバーする学問領域として捉え，これまで果たしてきた役割を確認し，21 世紀における薬理学の identity を確立することを目的として，1)「オープンイノベーション活動」をさらに発展させる，2)「薬理学エデュケーター」認定制度により，薬理学における高度な教育技術を備えた会員を薬理学エデュケーターに認定する，3) 学術集会の様々な状況に対応できるように Web 配信等の基盤を構築する，4) 国内の他学会，アジア諸国並びに世界各国薬理学会との連携を発展させる，5) 「Journal of Pharmacological Sciences」,「日本薬理学雑誌」の発行により，国内外へ情報を発信する，6)「日本薬理学会創立百周年」を中期目標とし，記念事業の企画及び準備を進める方針で学会活動を行った.
第 97 回年会の開催方針について理事から臨時理事会開催の要請があり，12 月 25 日にオンラインで開催した.

3. 学会の在り方と薬理学の展開について
日本医学会の「医学研究の利益相反（COI）マネージメントに関するガイドライン」は日本医学会の方針を反映し，それぞれの事業において適切な COI の開示に務めた.
1) 学術集会，講演会等の開催事業について
・第 94 回日本薬理学会年会は，2021 年 3 月 8 日(月)から 10 日(水)まで，札幌コンベンションセンター（北海道札幌市）の現地とリモートを併用して開催された.
　テーマ：『The Exciting Future of Pharmacology「ワクワクする薬理学の未来」』
・地方部会は，第 72 回北部会，第 144 回関東部会，第 145 回関東部会，第 139 回近畿部会をオンラインで，第 140 回近畿部会は現地開催，第 74 回西南部会は現地とオンラインを併用して開催された.
・次世代薬理学セミナーは第 139 回近畿部会，第 145 回関東部会に合わせてオンラインで開催された.
・看護薬理学カンファレンスは 3 月 7 日に札幌で（第 94 回年会開催時），11 月 13 日に奈良で（第 140 回近畿部会開催時），12 月 11 日に仙台で（第 42 回日本臨床薬理学会学術総会開催時）にいずれもオンラインで開催された.

2) 学会誌等刊行物の刊行事業について
・日薬理誌は隔月刊で，奇数月に発行している.
・Japanese Pharmacological Sciences（JPS）はSE 制を導入する等編集体制を強化し，Special Issue として学術奨励賞受賞者の review，江橋賞受賞者の review，トランスポーター，COVID-19 各研究の特集を企画した.
　JPS 査読者の質の向上と，掲載論文の国際的価値を高めることに資する目的で創設された JPS 優秀査読者賞の令和 3 年度受賞者 5 名を決定した.

3) 研究の奨励及び研究業績の表彰事業について
・江橋節郎賞選考委員会の答申に基づき京都大学大学院医学研究科の 林 康紀 教授を第 15 回江橋節郎賞受賞者とする

ことを決定した.

研究テーマ：『海馬シナプス可塑性の分子機構』

・第 37 回学術奨励賞受賞者 3 名を決定した.

・第 26 回 JPS 優秀論文賞受賞論文を決定した. JPS 優秀論文賞は，過去 3 年間に掲載された原著論文の中で引用回数の多い順に約 10 編を選び，その中から選考されてきたが，2 年間の経過措置期間をおき，2023 年選考より過去 1 年間に掲載された原著論文から選考することを決定した.

4) 薬理学に関する研究及び調査について

・第 94 回年会のダイバーシティセミナー終了後のアンケートで「学生，より若い教員・研究者から話を聞く機会があると良い」という要望が複数寄せられたことから，第 95 回年会で「アンコンシャスバイアス」というテーマのセミナーを企画する.

・日本医学会連合の厚生労働科研から「新型コロナウイルス感染症による他疾患等への影響調査研究」への協力依頼があり，JPS に投稿された論文の中で COVID-19 関連の論文について Elsevier の協力を得て調査を行い，結果を報告した.

5) 内外の関連学術団体との連携及び協力事業について

・第 8 回日中薬理学・臨床薬理学 Joint Meeting を第 94 回年会に併せて 3 月 10 日に Web で開催した.

・JPS-ASCEPT Lecture は第 94 回年会会期中の 3 月 10 日に Monash University の Dr. Denise Wootten が Web で講演を行った.

・第 23 回韓日薬理学合同セミナーを 6 月 25 日に Web で開催した.

・ASCEPT-JPS Lecture は 12 月 1 日に大阪大学の橋本 均教授（大阪大学）が参加し，Web で講演を行った.

4.「薬理学エデュケーター認定」申請者 18 名を認定した. 認定期間は令和 4 年から 5 年間である.

5. 第 97 回年会長候補者の決定

第 97 回日本薬理学会年会長として(国研)医薬基盤・健康・栄養研究所 感染病態制御ワクチンプロジェクトリーダーの今井由美子氏が提案され，承認された. 総会の承認を経て，第 97 回年会は，2023 年 12 月に第 44 回日本臨床薬理学会学術総会と同時開催される予定である.

6. 2025 年度に開催予定の第 98 回日本薬理学会年会は，日本解剖学会，日本生理学会とともに基礎系 3 学会の合同年会とすることが決定しており，当該年会の開催担当部会を関東部会とすること，パシフィコ横浜で開催する予定である.

7. 名誉会員の推薦

令和 4 年度に就任する名誉会員候補者 9 名を学術評議員会及び総会に推薦することを決定した.

石井　邦明，木村 英雄，五嶋 良郎，笹栗 俊之，關野 祐子，西堀 正洋，松木　則夫，宮田 篤郎，矢部 千尋

8. 永年会員の推薦

令和 4 年度に就任する永年会員候補者 8 名を学術評議員会及び総会に推薦することを決定した.

石川 直久，石田 行知，小野寺憲治，七戸 和博，篠原 光子，戸苅 彰史，中神　啓仁，渡邉 泰雄

9. 令和 4 年度薬理学振興助成事業決定について

令和 4 年度の薬理学振興助成事業として 16 件が申請され，助成希望額とともに承認された.

10. 令和 3 年度の事業報告及び決算を承認し，学術評議員会及び総会に付議する. 令和 4 年度事業計画及び予算は，令和 3 年 11 月 25 日開催の理事会の承認，決定を経て内閣府に提出した.

11. 令和 3 年度の新規入会者 336 名を承認した. 令和 4 年度からシニア割引適用を希望する 7 名を承認した.

2022，2023 役員年度　役員等選挙報告

役員（理事・監事）選挙

1. 役員候補者被選挙権者の推薦

令和２年 10 月１日：会員専用サイトに被選挙権有資格者名簿公示，Web 推薦受付開始
10 月末日：推薦締切
11 月 10 日：役員候補者被選挙権者確定　開票管理者　安西　尚彦　総務委員長
杉山　　篤　総務委員

	北	関東	近畿	西南
２名以上からの推薦を受け役員候補者被選挙権者となった者	２７	９４	１０１	３２

推薦権行使者数	396
推薦権行使率	31.9(%)

2. 役員候補者選挙（第一段選挙：部会毎の電子投票）

令和２年 11 月 16 日：　会員専用サイトに被選挙権者名簿公示，投票サイトオープン
12 月７日：　投票締切
12 月８日：　４部会一斉開票（候補者決定）
16 日：　選挙結果を学会ホームページの会員専用サイトで通知

	北	関東	近畿	西南	総計
投票者数	66	194	194	96	550
投票率	46.8	39.0	44.5	58.9	44.4(%)
(前回)	(50.4)	(40.5)	(45.8)	(47.0)	(46.5)

開票管理者 北 部 会：　守屋　孝洋　総務委員，　安西　尚彦　総務委員長
関東部会：　杉山　　篤　総務委員，　安西　尚彦　総務委員長
近畿部会：　土屋浩一郎　総務委員，　安西　尚彦　総務委員長
西南部会：　杉山　　篤　総務委員，　安西　尚彦　総務委員長

【Web 選挙結果】(50 音順)

理事候補者

北 部 会：新田　淳美，　南　　雅文，　吉岡　充弘，　若森　　実　　以上 4 名
関東部会：赤羽　悟美，　石川　智久，　諫田　泰成，　黒川　洵子，　小泉　修一，
杉山　　篤，　辻　　稔，　成田　　年，　廣瀬　謙造，　三澤日出巳　　以上 10 名
近畿部会：石澤　啓介，　上原　　孝，　大野　行弘，　金井　好克，　田熊　一敞，
西山　　成，　橋本　　均，　古屋敷智之，　山田　清文，　吉栖　正典　　以上 10 名
西南部会：甲斐　広文，　武田　泰生，　津田　　誠，　柳田　俊彦　　以上 4 名
監事候補者　石毛久美子，　上園　保仁，　川畑　篤史，　平　　英一，　西　昭徳，原　英彰　　以上 6 名

3. 役員選挙（第二段選挙：年会学術評議員会参加登録者による Web 投票）

令和３年２月　　：会員へのお知らせに役員候補者の抱負と役員候補者名簿掲載.
３月２日～6 日：Web 投票
３月７日　　：理事会で開票
３月８日　　：年会学術評議員会で発表

理事候補者

北 部 会：南　　雅文，若森　　実（吉岡 充弘氏逝去につき若森 実氏が候補となる）　以上２名
関東部会：赤羽　悟美，小泉　修一，杉山　　篤，廣瀬　謙造，三澤日出巳　以上５名
近畿部会：上原　　孝，金井　好克，橋本　　均，古屋敷智之，山田　清文　以上５名
西南部会：甲斐　広文，津田　　誠　以上２名
監事候補者　上園　保仁，原　　英彰　以上２名

令和４年３月　　：役員選考委員会選出理事とともに総会で承認

常置委員会委員選挙

役員候補者選挙 2. と同時に投票及び開票を行った（投票数，投票率は役員候補者選挙と同じ）.

X．委員会等報告

（各委員会委員名は五十音順，敬称略）

総務委員会報告

委員長：安西 尚彦

委　員：天野　託，齊藤 源顕，佐藤 洋美，杉山　篤，土屋浩一郎，冨田 修平，西　昭徳，橋本　均，守屋 孝洋

本年度は 11 月 5 日に Zoom ミーティングを併用して委員会を開催した．

1．各種申請書あるいは委員会議事録の署名押印を極力電子署名に変更する案について
常置委員会規定第 10 条，年会学術企画委員会規定第 7 条，賞等選考委員会規定第 8 条，江橋賞選考委員会規定第 8 条，倫理委員会規定第 13 条の「署名押印」あるいは「署名・押印」を「署名（電子署名可)」と変更し，COI 自己申告書様式 3 の押印を廃止し，署名のみとする変更案を理事会に提案し，承認された．

2．新名誉会員・新永年会員の推薦について
名誉会員推薦規定及び同運用基準，永年会員推薦規定及び同運用基準に基づき，令和4年度に就任する名誉会員候補者9名，永年会員候補者8名が推薦要件を充足することを確認し，理事会に報告した．

3．シニア会費適用の申請について
令和4年度会費からシニア会費適用を希望する会員について申請内容を確認し，申請者10名全員にシニア会費が適用されることを確認し，理事会に報告した．

4．役員選挙の実施方法について
現行の選挙は，役員等選挙の1年前倒しにより，ｉ）代議員選挙，ⅱ）役員候補者推薦投票，ⅲ）地方部会役員候補者選挙と常置委員会選挙が同年度に実施されている．選挙権者，被選挙権者の確定から開票までの一連の業務が年度後半に集中することから，総務委員会では簡略化する方向を検討し，役員選挙の実施手順から２名の学術評議員による役員候補者推薦投票を廃止することを理事会に提案し，承認された．
併せて役員等選挙の前倒しを恒例化すること，年会での選挙をオンライン投票とすることが承認された．選挙に係る規定の変更のタイミングを検討する．

利益相反（COI）委員会報告

委員長：安西 尚彦

委　員：天野　託，齊藤 源顕，佐藤 洋美，杉山　篤，土屋浩一郎，冨田 修平，西　昭徳，橋本　均，守屋 孝洋

11 月の総務委員会に合わせて委員会を開催した．COI 申告書については，委員長と杉山委員により審査が行われ，その結果が委員に報告された．

財務委員会報告

委員長：赤羽 悟美

委　員：上園 保仁，岡村 信行，五嶋 良郎，武田 泰生，冨田 修平，橋本　均，三澤日出巳，吉岡 充弘，吉栖 正典
谷内 一彦（オブザーバー）

財務委員の吉岡 充弘氏が，任期中に逝去された．

委員会を 3 月 3 日と 11 月 13 日に Zoom により開催した．第 95 回年会の前に財務委員会を開催する予定である．

令和 3 年度の決算処理を行い，令和 4 年度の予算案を編成した．会計処理に係る重要事項はワーキンググループで事前に検討を行った．

1．令和 3 年度決算について

令和 3 年は，新型コロナウイルスが事業形態に大きく影響したものの，前年に比較して収入，支出ともに増加し，一般正味財産の経常収支差額は約 571 万円の黒字であり，これに経常外収益を加えた一般正味財産の収支差額は約 771 万円の黒字で決算した．一般正味財産は 1 億 9,999 万円，指定正味財産と合わせた令和 3 年度末の正味財産は 2 億 377 万 7,147 円となった．

1）個人会費収入の減少傾向は続いているものの，減少幅は少なくなっている．賛助会員の継続と寄付の確保に向けた特典を検討し，働きかけたことにより，新たな賛助会員の申し込みを得た．

2）公１事業：
・第 94 回年会はハイブリッド開催となったが，誌上開催となった第 93 回年会から寄付金が繰り越され，黒字額約 154 万円で決算した．
・部会開催及び薬理学振興助成事業はオンライン（一部はハイブリッド）で実施したことにより，支出が抑えられた．6 部会の開催全体で交付金を使用することなく収支はわずかに黒字であった．薬理学振興助成事業には約 120 万円の補助金を支出した．
・学会事務局での学術集会関連支出は約 1,055 万円である．
3）公２事業：
・和文誌の刊行収入は，昨年度より掲載料が増加し約 592 万円であった．これに対して支出額は 1,419 万円であり，収支差額は約 825 万円の赤字となったが，前年度に比べて約 50 万円近く赤字が減少した．
・英文誌は，掲載料収入と広告料収入の合計が 14 万ドルを超えた金額の 10%にあたる 167,309 円が学会にロイヤリティとして支払われた．支出は Special Issue の学会負担分とエルゼビアの事務局経費の 45,000 ドルであり，国際情報発信費として計上している．
・国際情報発信には，国際情報発信強化費として獲得した科研費補助金の 650 万円/年を使用した．
4）公３及び公４事業：褒賞事業は委員会のオンライン開催による旅費の減少以外に大きな変化はなかった．連携事業は，海外との交流を延期またはオンライン開催への移行により，旅費支出が発生しなかった．
5）その他事業：令和 3 年のエデュケーター認定申請は，18 名であった．
6）管理費：会議のほとんどがオンラインで開催されたため，旅費および会議費が予算額より減少した．
7）ワンネット社との業務委託契約の更改により，ワンネット社への支払額は約 800 万円減少した．一方，事務局の給与，報酬，派遣業務への支払いが約 1,000 万円発生した．
8）経常外収益 法人会計： 持続化給付金 200 万円の給付を受けた．
9）指定正味財産 法人会計： 薬理学会会員の先生から 300 万円のご寄付を頂いた．

コロナウイルスで事業規模が縮小し，学会で保有できる有休財産額（内部留保額）が 2 年続けて過大となっている．公益法人の有休財産額は，その年度の公益目的事業費を超えないことと定められているため，国際基金に 1 千万円を繰入れ，百周年記念事業の積立額を 500 万円に増額した．

2．令和 4 年度予算案編成の件
令和 4 年度は第 95 回年会と第 96 回年会が同年度に開催される．年会期間中に開催される薬理学振興助成事業も 2 回分を予算化している．第 96 回年会が 11 月 30 日から 12 月 3 日に開催されることに伴い，秋に予定されていた関東部会を次年度 3 月の開催とするため部会開催は 5 回である．
新型コロナウイルスが収束に向かえば，令和 4 年度の学術集会はオンサイト開催が増え，会議はオンラインとオンサイトの併用で開催される見込みである．令和 4 年度予算は収入を約 1 億 7,616 万円，支出を約 1 億 8,917 万円，収支差額を約 1,300 万円の赤字とする収支予算案を編成し，理事会に提案した．
1）会員が保有している講義スライドや教育のリソースを集積・共有し，薬理学教育の推進に役立てることを目的とする薬理教育フォーラム Web サイトの構築を令和 3 年に着手した．学会が進めるデジタルトランスフォーメーション（DX）の一環で段階的に進めるための予算 200 万円を計上した．
2）国際交流のための連携費用を増額した．世界各国との交流に会員を派遣する旅費，また国内で開催される国際交流プログラムの開催費用の補助が主な内容である．
3）年会の参加登録，演題登録を含む事前準備を学会事務局が行うため，事務局人件費を増額した．

3．日本薬理学会の財務方針について
・公益社団法人として公益事業の収支相償に努め，内部留保額や管理費が必要額以上の黒字となった場合は，基金に一部を繰り入れて事業の経費に充てる会計方針とする．令和４年度は DX プラットフォーム構築や国際交流活動をはじめ学術活動の推進に向けて公益目的事業支出を増額することで，会計収支の黒字額を解消する方針である．
・日本薬理学会が保有する資産については，銀行の定期預金では利息がほとんど見込めないため，令和 3 年 3 月と 12 月にそれぞれ 3 千万円の債券（社債）を購入し，堅実な資産運用を行っている．預貯金は，財務委員長と財務ワーキングが定期的に確認し，適正に管理する．

4．その他対応事項等
・賛助会員の確保に向けて，委員会横断的なワーキンググループを設置し施策を立案し実行に移した．
・令和 3 年 4 月より，学会事務局は自前で運営している．薬理学会の活動を支える事務局運営体制の整備が急務である．

研究推進委員会報告

委員長：石川 智久

委　員：赤羽 悟美，小原祐太郎，諫田 泰成，小林 真之，高井 真司，津田　誠，戸村 裕一，成田　年，西山　成

委員会を令和3年6月8日にZoomミーティングにより開催した．その後，必要に応じてメーリングリストを利用したメール会議を行った．

1. 薬理学会パンフレット「医学と医療における日本の薬理学の貢献　日本薬理学会へのいざない」の改訂について
   委員が分担して作成した初稿を基に，ブラッシュアップ方針やイラストの方向性等について議論し，今年度中の完成を目指して新パンフレットの作成を進めた．
   新パンフレットのタイトルは「薬理学へのいざない　～くすりのしくみを知ろう～」となった．また，パンフレットの項目が当初案から一部変更となった．

薬理学へのいざない　～くすりのしくみを知ろう～

はじめに：くすりと薬理学

01：くすりが作用するターゲット
02：多様化するくすり　ーモダリティー
03：脳に働くくすり
04：痛みを和らげるくすり
05：血を濃くするくすり
06：心臓の働きを助けるくすり
07：血液の脂質を下げるくすり
08：血糖値を下げるくすり
09：呼吸を楽にするくすり
10：胃に働くくすり
11：感染を抑えるくすり
12：免疫機能を改善するくすり
13：がんを抑えるくすり
14　新たなくすりの開発に向けて

おわりに：薬理学は医療に必須な総合ライフサイエンス

2. 薬理学会のDORA署名について
   「薬理学会がDORAに署名するか否か」について，編集委員会と研究推進委員会との合同で検討することになり，研究推進委員会の各委員にはDORAのHP等を参照してDORA署名について意見をまとめておいて頂くこととした．

編集委員会報告

委員長(JPS Editor-in-Chief)：小泉 修一

委員(JPS Section Editors)　：岩本 隆宏，大野 行弘，諫田　泰成，東田 千尋，中川 貴之

(JPS Associate Editors)：黒川 洵子，原　英彰，三澤日出巳，山田 清文，山村 寿男，若森 実

Ⅰ．JPS 投稿・審査状況（投稿数，採択率，Impact Factor）（2022年1月14日現在）

1. 受付論文数

1）推移（2017-2021）

年	2017	2018	2019	2020	**2021**
Submitted	348	525	603	825	**1,071**
Rejected	180	287	344	592	**817**
Accepted	108	137	127	110	**117**
Withdrawn etc	32	47	50	190	**137**
Publications	95	143	129	119	**124**

2）国別（2020-21）

年・国	中国	日本	India	Iran	Egypt	USA	Nigeria	Saudi A	Thailand	Taiwan
2020	507	84	35	21	16	12	11	16	8	9
2021	765	92	50	30	20	11	10	10	9	8

3) Section 別 Accept/Reject 論文数 2021 (2020)

Section	Status	Number
Anticancer drug/Toxicology	Accepted	13(2)
	Rejected	168(54)
Biopharmaceutical/Clinical Pharmacology	Accepted	19(4)
	Rejected	162(51)
Cardiovascular pharmacology and pharmacology in other systems	Accepted	39(15)
	Rejected	241(108)
Natural and herb medicine	Accepted	13(5)
	Rejected	132(73)
Neuropharmacology	Accepted	30(17)
	Rejected	114(52)
Section 導入以前	Accepted	2(67)
	Rejected	0(254)
Total		934(702)

2. 採択率（投稿年別）

2009 年 47%, 2010 年 49%, 2011 年 50%, 2012 年 50%, 2013 年 48%, 2014 年 42%, 2015 年 32%,
2016 年 34%, 2017年 34%, 2018年 25%, 2019年 27%, 2020年 16%、**2021年 12%.**

Top 10の採択状況

年・国	中国	日本	India	Iran	Egypt	USA	Nigeria	SaudiA	Thailand	Taiwan
Submitted	765	92	50	30	20	11	10	10	9	8
Accepted	29	67	0	0	2	4	1	0	1	1
Rate (%)	3.8	72.8	0	0	10	36.4	10	0	10	10

3. Impact Factor （Journal Citation Report JCR® 発表）

2008 年：2.599, 2009 年：2.176, 2010 年：2.260, 2011 年：2.082, 2012 年：2.150,
2013 年：2.114, 2014 年：2.360, 2015年: 2.106, 2016 年：2.415
2017 年：2.575, 2018年：2.439, 2019：2.835（自然科学系 270 誌中 123 位）

4. 編集スピード（week）

年	2018	2019	2020	**2021**
First Decision	4.4	5.1	5.8	**5.4**
Acceptance	14.5	15.2	18	**17**
First Online	18.6	18.1	21	**18.5**

Ⅱ. JPS 刊行状況：本資料の「事業報告」の項に記載

Ⅲ. JPS 審議・決定，報告事項

1. 編集体制について

国内編集委員（12名）

小泉 修一，岩本 隆宏，大野 行弘，諫田 泰成，黒川 洵子，東田 千尋，中川 貴之，原 英彰，三澤 日出巳，
山田 清文，山村 寿男，若森 実

海外編集委員（7名：AndyはJNCのEiCになったため退任．Peterは死去．Dr Daisuke Satoを追加）

Tangui Nicolas Maurice, Qiang Xu, Shenuarin Bhuiyan, Feng Han, Naoki Yoshimura,
Frank A. Redegeld, Daisuke Sato

2. JPS 優秀論文賞について

JPS 優秀論文賞規定およびJPS 優秀論文賞受賞論文選考規定に従って，平成31/令和1年(2019)−令和3年(2021)の3年間に掲載された原著論文の中から，第27回JPS 優秀論文賞（The JPS Prize 2022 Awards）受賞論文を選出予定．現在審査中．

3. JPS優秀査読者賞について

JPS優秀査読者賞規定およびJPS 優秀査読者選考規定に従って，2021年度JPS優秀査読者5名を決定した．

- Yukio Ago (Hiroshima University)
- Tatsuhiko Furukawa (Kagoshima University)
- Daisuke Nakano (Kagawa University)
- Takeya Sato (Tohoku University School of Medicine)
- Yasuhito Uezono (National Cancer Center Research Institute)

4. 国際情報発信強化の取組みについて（IF強化の取り組み）
(1) Special Issueの強化
・2021奨励賞受賞者のreview（2022年3月締め切り）
・2021江橋賞受賞者のreview（2022年3月締め切り）
・JPS企画シンポジウム review（2022年3月締め切り）
・トランスポーター特集
・COVID-19特集
(2) 各種国際学会における展示，ブース等を通じた，ロビー活動（企画中）
(3) JPS編集の強化・正常化
・SE制の導入（5セクション制は導入済み．さらなるセクションを検討中）
・海外有力editorのリクルート

広報委員会報告

委員長（会誌編集長）：金子 周司
委　員：吾郷由希夫，石井 邦明，石澤 啓介，大矢　進，甲斐 広文，木内 祐二，吉川 公平，武田 泰生，辻　稔，中川 貴之，矢部 千尋

本年度は2021年3月31日にZoomミーティングにより委員会を開催した．

1. 日本薬理学雑誌隔月発行化に対する検証

2020年から隔月発行（年6回，奇数月発行）としたことによる発行状況および収支への影響を検証するため，その前年（2019年）との比較を行った．

掲載記事数・ページ数

発行回数は半分になったが，各号における掲載記事数は充実させ（対前年度比72%），ページ数についてもボリュームを保った（対前年度比58%）．特に掲載料を取る新薬紹介総説を多く掲載できた（対前年度比78%）ことが収入面に大きく貢献した．

収入

掲載料に関しては，新薬紹介総説の掲載数を確保したことで前年と同レベルを維持できた．しかし広告収入は減少しており，今後広告収入に頼らない財政状況としていくことは重要である．

支出

印刷会社への業務委託料は，隔月発行化に伴う契約内容の変更によって削減できた．また，ウェブ関連の業務委託料についても，委託先を1社に絞ったことによって削減できた．さらに，学会負担でのカラー印刷を原則として廃止し，J-STAGEでのオンライン版のみカラー画像を採用したことで，カラー印刷代が大きく減少した．

2. 賛助会員に対する「新薬紹介総説」欄掲載料割引制度

157巻1号（2022年1月号）より，賛助会員に対する掲載料割引制度を開始した．賛助会員となっている企業からの原稿に対しては，その口数%を掲載料から割り引く．執筆依頼にあたってはこの点をアピールし，賛助会員を増やすことを目指す．

企画教育委員会報告

委員長：南 雅文
委　員：池谷 裕二，石毛久美子，上園 保仁，上原 孝，谷村 明彦，古屋敷智之，宮田 篤郎，柳田 俊彦，山田 清文

委員会をZoomミーティングにより4回開催し，所管事項について検討を行った．

1. 新学術評議員選考の件

新学術評議員選考規定に基づき，学術評議員申請の審査を行った．通常申請者29名については，申請者全員が，会員歴および業績の基準を満たすことから29名の申請者全員を新しく学術評議員とすることとした．特例措置での申請分4名についても，申請者全員が新学術評議員選考規定第6条に照らし，特例に該当することから，新しく学術評議員とすることとした．以上の審査結果により33名を理事会に上申することとした．

2. 薬理学エデュケーター選考の件

事前に各委員より送付された審査結果に基づき，2021年度の薬理学エデュケーター申請の審査を行った．申請23件中，エデュケーターポイントが5ポイント未満である5件については申請要件を満たしていないものとした．他の18件については申請要件を満たしていることから，薬理学エデュケーターとして認定することを理事会に上申することとした．同候補者について理事会に諮ったところ，全18名の認定が承認され，ホームページに認定者一覧を掲載した．令和4年1月に発効する薬理学エデュケーター認定証を送付した．

3. 薬理学エデュケーターポイント付与方法変更の件

エデュケーター制度のポイント付与方法について審議し，改定を行うことを理事会に上申することとした．改定の要点を以下に記す．それに伴い「薬理学エデュケーター認定申請書」の改訂を行うとともに，新たに「薬理学エデュケーター更新申請書」を作成することとした．

【エデュケーター制度のポイント付与方法改定の要点】

・申請・更新に必要なポイントを 10 倍にする
・年会，部会，次世代薬理学セミナーの付与ポイントを 10 倍にし，半日単位とする（5 ポイント／半日）（年会あるいは部会と次世代薬理学セミナーが同時開催している場合は，当該年会あるいは部会の参加者は，どちらかの聴講で 5 ポイント／半日とし，重複での付与はなし）．
・年会，部会，次世代薬理学セミナー以外の日本薬理学会主催学術集会（看護薬理学カンファレンスなど）の付与ポイントは 3 ポイント／半日とする（年会あるいは部会と看護薬理学カンファレンスを同時開催している場合は，当該年会あるいは部会の参加者は，どちらかの参加で 5 ポイント／半日とし，重複での付与はなし）．
・１つの部会の参加登録で，複数の部会の WEB 聴講が可能となるような場合は，参加費を支払った部会での聴講についてポイントを付与する．
・日本薬理学会が共催する学術集会・シンポジウムの付与ポイントは 2 ポイント／半日を目安に，随時，企画教育委員会にて付与ポイントを決定する．
・申請・更新の際には，年会および部会の聴講以外で獲得したポイントについては，50 ポイントにつき 10 ポイント以内まで使用可能とする．
・新しい制度は，2023 年 4 月 1 日より開始することとし，それ以前に獲得したポイントは 10 倍する．

4. 薬理学教育リソース共有システムの件

薬理学教育に使用するスライド，プリント，実習書などの教育リソースのファイルのアップロード・ダウンロードのためのシステムを構築し，エデュケーター間で教育リソースを共有できるようにするため，薬理学教育リソース共有システムを構築・運用することについて審議を行い，2022 年 4 月 1 日から運用開始することを理事会に上申することとした．本システムの利用者についても審議し，エデュケーター以外に，薬理学を基盤とする教育を担当する講座（部門）の教授，大学病院の薬剤部長に新たに就任した者，及び委員会がこれに準ずると判定した者については，エデュケーター資格を取得するまでの期間，最長 3 年間，薬理学教育リソース共用システムの使用を認めることとした．

5. 次世代薬理学セミナーの件

次世代薬理学セミナーについて，2021 年の開催報告と 2022 年の開催計画の説明がなされた．次世代薬理学セミナーについては，今後もできる限り，オンサイトと WEB のハイブリッド開催とすることとした．

【次世代薬理学セミナー開催報告と開催計画】

2021 年 6 月 26 日　名古屋（第 139 回近畿部会）
2021 年 10 月 9 日　静岡　（第 145 回関東部会）
2022 年 9 月 18 日　札幌　（第 73 回北部会）
2023 年 3 月 21 日　東京　（第 147 回関東部会）
2023 年　　鹿児島（第 76 回西南部会）

6. 看護薬理学カンファレンスの件

看護薬理学カンファレンスについて，2021 年の開催報告と 2022 年の開催計画の説明がなされた．

【看護薬理学カンファレンス開催報告と開催計画】

2021 年 3 月 7 日　札幌（第 94 回年会）
2021 年 11 月 13 日　奈良（第 140 回近畿部会）
2021 年 12 月 11 日　仙台（第 42 回日本臨床薬理学会学術総会）
2022 年 3 月 6 日　福岡（第 95 回年会）
2022 年 10 月 1 日　高知（第 75 回西南部会）
2022 年 11 月 20 日＊ 第 96 回日本薬理学会年会と第 43 回日本臨床薬理学会学術総会のサテライト企画として開催

7. ダイバーシティ推進セミナーの件

第 95 回薬理学会年会でのダイバーシティ推進セミナーについて，企画案の説明があり了承された．アンケートについては Google Form を用いて行うこととした．

賞等選考委員会報告

出席者：杉山　篤（委員長）

石川 智久，久場 敬司，五嶋 良郎，酒井 規雄，杉浦 麗子，筒井 正人，西村 有平，新田 淳美

委員会を2回開催した.

本賞の選考方針を確認する目的で第1回委員会を開催し，学術的評価の合計と薬理学会への貢献度を単純に合計し，受賞候補者を決定するものではないことを申し合わせた.

1. 第37回学術奨励賞

受賞候補者の選考について「賞等選考委員会規定」,「学術奨励賞規定」,「学術奨励賞受賞者選考規定」，推薦者の評価方法，基本方針を確認し，候補者10名の推薦書について，事前に全委員が審査した評価をもとに検討を行った結果，委員会は，第37回日本薬理学会学術奨励賞の受賞候補者として，葛巻 直子氏，篠原 亮太氏，原田 龍一氏（五十音順）の3名を理事会に答申することを決定した.

候補者名，研究課題は，以下のとおりである.

【受賞候補者】

葛巻　直子（星薬科大学薬理学研究室・准教授）

『疾患 iPS 細胞分化誘導細胞の多次元的細胞特異的解析を応用した細胞特異的遺伝子改変疾患モデル動物による高感度リバーストランスレーショナル研究の確立』

篠原　亮太（神戸大学大学院・医学研究科・講師）

『神経回路の形成・可塑性のメカニズムと病態生理学的意義の解明』

原田　龍一（東北大学大学院・医学系研究科・助教）

『PET プローブを用いた神経病理画像化に関する研究』

2. 令和4年度開催の薬理学振興助成事業の選考について

申請のあった16件について審議を行い，いずれも助成事業としての必要性が認められること，令和4年は3月と12月に年会が2回開催されることを考慮し，申請額を含め，全件を採択することを決定した.

申請事業が固定化されているため,令和4年の募集公告の際に,新規事業の応募を呼びかけることを理事会に提案した.

3. 各種助成団体等への本会としての推薦

日本学術振興会 若手科学者賞に1名を学会推薦した.

年会学術企画委員会報告

委員長：戸村 裕一

委　員：西山　成，池谷 裕二，石毛久美子，吉川 公平，若森　実，五嶋 良郎，高橋 禎介

オブザーバー：宮田 篤郎（第95回年会長），笹栗 俊之（第95回副年会長），安西 尚彦（第96回年会長）

Zoomによる2回のオンライン委員会開催とメーリングリストを利用した議論を実施し，以下の件について，審議・合意した.

<u>第94回年会企画の振り返り</u>

年会学術企画委員会が採択した公募シンポジウム27件，および委員会にて企画した教育講演1件，特別講演1件，企業企画シンポジウム4件，With/after コロナ時代の新たな薬理学教育 II シンポジウムについて概ね盛況であり，今後も同様の支援，企画を委員会が実施する.

<u>第95回年会企画について</u>

1. <u>実施概要：</u>福岡国際会議場・福岡サンパレスでのオンサイト開催を主とするがオンラインも併用していく方針.

また第95回年会と第96回年会（2022年12月開催予定）は時期が接近しているため，連続性を持たせた企画を検討する.

2. 特別企画：第 94 回年会において企画された製薬協による特別講演が好評であり，薬理学会として継続的な連携関係を構築したいとの目的から，本年会においても製薬協によるランチョンセミナーを企画した．
　・COVID-19 の治療薬・ワクチンの研究開発スピードの短縮化：森和彦 製薬協専務理事

3. 一般公募シンポジウム：委員およびオブザーバーによって，重複がないことや最新知見の紹介あるいは教育的なレビューなどそれぞれの実施目的を確認した結果，一般公募シンポジウム 31 件，企業企画シンポジウム 3 件，ワークショップ 1 件を採択した．

4. 企業企画シンポジウム：公平性と企業からの積極的な参加を促進するため，公募を実施した．以下 3 演題が提案・審議され，学会員の興味も高いトピックであることから採択された．
　・医薬品開発における AI 利用の現状について
　・製薬企業会社の革新的医薬品バイオ創薬の最前線
　・マイクロバイオーム創薬研究とその将来展望

5. その他企画：産学連携促進企画「創薬シーズ特設シンポジウム」を開催した．
　・本企画は賛助会員への特典として第 95 回年会において試験的に実施した
　・アカデミアの先生方から創薬シーズや創薬基盤技術をご紹介頂くことで，企業との協業の機会となることが期待される
　・今後アンケートなどを通してフィードバックをいただき，継続可否および改善点を検討していく予定

江橋賞選考委員会

委員長：赤羽 悟美
委　員：大隅 典子，谷口 維紹，鍋倉 淳一，米田 悦啓，和田 圭司（以上学会外委員）
　　今泉 祐治，岡 淳一郎，成 宮　周，谷内 一彦

第 15 回江橋賞候補者選定のための委員会を 10 月 15 日に Zoom ミーティングにより開催した．

1. 第 15 回江橋節郎賞候補者選考経過について
・第 15 回江橋節郎賞の候補者は 6 名であった．
・委員 10 名で，各候補者の研究を「①独創性」，「②世界から見た位置づけ」，「③当該分野に与えた影響度」，「④研究の流れ・今後の発展性」の 4 項目と，学会内委員は「⑤薬理学への貢献」を加えた 5 項目で，それぞれを 10 点満点とする事前評価を行い，その結果は選考の参考とすることとした．
・学会内委員による各候補者紹介の後，評価項目について意見交換を行った．
・候補者の決定は投票によることとし，意見交換の後，委員長と COI 該当者を除く出席者 6 名で無記名投票を行い，投票数の 3 分の 2 以上を獲得した 林 康紀 氏を，第 15 回江橋節郎賞受賞候補者として理事長に推薦することを決定した．
　　候補者の研究テーマ：『海馬シナプス可塑性の分子機構』

2. 受賞候補者の研究について
林候補は，一貫してグルタミン酸受容体伝達の分子機構について研究を行ってきた．長期増強現象（LTP）に伴って AMPA 受容体がシナプスに移行すること，その細胞機構の中で CaMKⅡが構造的な役割を果たしていること，また CaMKⅡが液－液相分離を起こすことを発見し，グルタミン酸シナプスの可塑性の分子機構とカルシウムシグナルの役割に新たな概念をもたらした．

3. 江橋賞候補者選考のための評価指標について
候補者の研究業績評価の指標としている IF 値と CI 値以外にも，Scopus 等他の評価指標を含める見直しを行った方が良いのではないかなどの意見が交わされたことを踏まえ，研究業績評価方法を学会内委員で検討する．

4. 委員の任期満了について
第 15 回の選考をもって外部委員 1 名と学会内委員 1 名が 4 年の任期を満了する．

国際対応委員会報告

委員長：金井 好克
委　員：安西 尚彦，　甲斐 広文，　黒川 洵子，　廣瀬 謙造，古屋敷智之
顧　問：飯野 正光，　三品 昌美
オブザーバー：小泉 修一（編集委員長）

2021 年 6 月 3 日に委員会（Zoom 会議）を開催した他，随時メールによる審議を行った．

1. 国際対応委員会 HP「国際交流ひろば」の開設．本委員会のミッションのひとつである「会員への国際交流関連の情報提供と連携の推進」に基づく「会員への情報提供」の一環として，国際対応委員会 HP「国際交流ひろば」を日本薬理学会 HP に立ち上げた．国際交流イベント情報を掲載していくとともに，　IUPHAR, APFP, KPS, CNPHARS, ASCEPT, ASPET, BPS と連携した活動を紹介していく．また，IUPHAR の薬物標的・創薬標的データベース Guide-to-Pharmacology および薬理学電子教科書 IUPHAR Pharmacology Education Project（PEP），WCP2018（Kyoto)アーカイブ（YouTube）のバナーを置いている．

2. 国際対応アソシエイツの活動．本委員会の重要な役割である「会員への国際交流関連の情報提供と連携の推進」に基づき，会員との連携推進の一環として，国際交流のさらなる充実・拡充と国際交流イベント等への参画を促進することを目的として「国際対応アソシエイツ」を立ち上げ，活動を開始している．国際対応アソシエイツは，国際交流に関する会員の連絡会であり，国際対応委員会と連携し，イベント等の企画，立案，実施へ参画，必要に応じて国際対応委員会にオブザーバーとして参加．第 1 回国際対応アソシエイツ交流会（2021 年 8 月 4 日　オンライン）を開催した．

3. 第 8 回日中薬理学・臨床薬理学シンポジウム．第 94 回日本薬理学会年会（吉岡年会長，札幌）において，日中合同シンポジウム（３月８日 13:30～17:00）として開催．日本薬理学会からは西田基宏教授（九州大学/生理学研究所）の講演が行われた．

4. ASCEPT との交流では，第 94 回日本薬理学会年会へ，ASCEPT から Dr. Denise Wootten（Monash University）を講師として招聘（オンライン講演）．

5. ASPET との講師交換プログラムとして，金井好克教授（大阪大学）を EB2021（2021 年 4 月 27 日～30 日 Web 開催）へ派遣（オンライン講演）．

6. 第 23 回日韓薬理合同セミナー．2021 年 6 月 25 日（金）13:50-17:30，韓国主催で，オンライン開催（韓国基礎医学者連合会（KBSM）（6 月 24 日-25 日開催）の Korea-Japan Joint Session として開催）．日本薬理学会からは，廣瀬謙造教授（東京大学），谷内一彦教授（東北大学），甲斐広文教授（熊本大学）の講演に加え，short lecture 3 演題，ePoster 19 演題の発表が行われた．

7. 第 14 回 APFP 会議（APFP 2021）が，2021 年 11 月 26 日～29 日に台北市（台湾）で開催された（ハイブリッド開催）．

8. ASCEPT との講師交換プログラムとして，橋本均教授（大阪大学）を ASCEPT2021（2021 年 11 月 29 日～12 月 2 日 Web 開催）へ派遣（オンライン講演）．

9. ASPET との講師交換プログラムとして，第 95 回日本薬理学会年会（宮田年会長，福岡）へ，ASPET から Dr. Katerina Akassoglou（Gladstone Institutes and University of California）を講師として招聘（オンライン講演）．

10. WCP2023（Glasgow UK）は，2023 年 7 月 2 日～7 日に開催予定．

11. IUPHAR 対応．IUPHAR では，次期理事会（2022 年 7 月発足）より，理事会構成の大きな変更が行われる．日本学術会議 IUPHAR 分科会と連携しながら新たな体制に対応していく．

【ダイバーシティの取組み報告】

ダイバーシティ推進担当理事：矢部 千尋

第 95 回年会におけるダイバーシティ推進企画について

第 94 回年会のダイバーシティ企画セミナー終了後のアンケートにおいて「学生，より若い教員・研究者から話を聞く機会があると良い」という要望が複数寄せられた．そこで今回は前回石毛理事と担当した「世代間ギャップを考えよう Part 2」に引き続き，あらゆる年代の薬理学会会員に共通する課題である「アンコンシャスバイアス」というテーマでセミナーを企画した．

本セミナーの演者選定には学会理事や学術評議員のご協力のもと，年代や国籍，所属の異なる 4 名の女性研究者をご推薦頂いている．それぞれの立場から日頃気づくことを話してもらうことで多様な意識と考え方を共有し，会員相互の理解を深め，広く人材育成に資する機会とする．

【次世代の会活動報告】

代表：小山 隆太（関東部会）

委員：北 部 会：長沼 史登，川畑伊知郎

関東部会：井手聡一郎，大久保洋平，小菅 康弘，林　良憲，藤田 智史，溝口 尚子，宮川 和也，村田 幸久

近畿部会：衣斐 大祐，大垣 隆一，白川 久志，鈴木 良明，タムケオ ディーン，橋川 成美，石澤 有紀，篠原 亮太，坪田 真帆

西南部会：清水 孝洋，向田 昌司，矢吹　悌，山下 智大

COVID-19 の影響もあり，2021 年は随時メール会議を行った．

1. 規定により（教授就任），野村先生と小菅先生は次世代の会を退会された．

2. 応募により次世代の会に以下の新メンバーが加わった（上記委員名にアンダーライン）．

川畑伊知郎（Ichiro Kawahata）	東北大学 大学院薬学研究科 先進脳創薬講座
石澤　有紀（Yuki Ishizawa）	徳島大学大学院医歯薬学研究部 医学域 医科学部門生理系 薬理学分野
篠原　亮太（Ryota Shinohara）	神戸大学 大学院医学研究科 薬理学分野
坪田　真帆（Maho Tsubota）	近畿大学 薬学部 病態薬理学研究室
向田　昌司（Masashi Mukohda）	岡山理科大学 獣医学部・獣医薬理学教室

3. 年末に次世代の会運営委員を募集し，3 名の応募があった．そのうち 1 名はその後，辞退する旨の連絡があった．2 名の応募者に関しては 3 月の次世代の会・会議にて審議を行う予定である．

4. 「次世代薬理学セミナー」を第 139 回近畿部会において併催した．
   次世代薬理学セミナー 2021 in 名古屋（オンライン），2021 年 6 月 26 日開催
   「神経変性疾患 ～診断・病態解明・予防/治療の最前線～」　オーガナイザー：白川　久志（京都大学）

5. 「次世代薬理学セミナー」を第 145 回関東部会において併催した．
   次世代薬理学セミナー 2021 in 静岡（オンライン），2021 年 10 月 9 日開催
   「先端的異分野融合で切り拓く新たな創薬研究」　オーガナイザー：小菅　康弘（日本大学）

6. 第 95 回年会における次世代の会企画シンポジウムは矢吹先生(熊本大学)がオーガナイザーとして開催する予定である．

7. 第 95 回年会における若手研究者キャリア支援プログラムは大垣先生（大阪大学）がオーガナイザーとして開催する予定である．

8. 次回の次世代薬理学セミナーは，第 73 回北部会（2022 年 9 月 17 日，北海道科学大学：佐藤久美先生，次世代側オーガナイザー：川畑先生・長沼先生）にてハイブリッド開催が決定した．

9. 次々回は第 147 回関東部会（2023 年 3 月 11 日，東京大学：廣瀬謙造先生）にてハイブリッド開催を行う予定である．

10. 引き続き次世代の会ホームページ　(http://angesjps.umin.jp) にて活動実績等を紹介している．
    HP に関しては，清水先生にご尽力いただいた．

XI. 2022 年度新学術評議員申請者一覧（33 名）

※ 五 十 音 順

番号	候補者氏名	現職	会員歴(年)	主な研究領域	発表論文総数(原著論文数)	本学会学術集会発表総数	雑誌掲載総数	推薦学術評議員氏名
1	相澤　風花	徳島大学病院 薬剤部 特任助教	6	臨床薬理	13（12）	17	1	石澤　啓介
2	有岡　将基	九州大学大学院医学研究院 臨床薬理学 助教	10	骨・歯科薬理	33（32）	30	3	笹栗　俊之
3	石兼　　真	産業医科大学医学部 薬理学 講師	8	心血管薬理	27（23）	36	1	高橋　富美
4	伊藤　昭博	東京薬科大学生命科学部 教授	8	生化学薬理	103（103）	4	0	上原　　孝
5	伊藤　義也	北里大学医学部 薬理学 准教授	6	消化器薬理	122（99）	27	2	天野　英樹
6	太田　宏之	防衛医科大学校医学教育部 薬理学 講師	6	中枢神経薬理	17（16）	3	0	石塚　俊晶
7	大野美紀子	滋賀医科大学医学部 薬理学 准教授	5	心血管薬理	26（25）	4	0	村松里衣子
8	神田　循吉	新潟薬科大学薬学部 臨床薬物治療学 准教授	15	骨・歯科薬理	21（21）	15	1	若林　広行
9	喜多　　知	福岡大学医学部 薬理学 講師	5	受容体・チャネル・輸送系	15（15）	16	0	岩本　隆宏
10	木村　　徹	杏林大学医学部 薬理学 講師	14	受容体・チャネル・輸送系	46（43）	6	4	安西　尚彦
11	後藤　　愛	東邦大学大学院医学研究科 博士課程 大学院生	5	心血管薬理	42（42）	41	14	杉山　　篤
12	篠原　亮太	神戸大学大学院医学研究科 薬理学 講師	12	中枢神経薬理	14（12）	6	2	古屋敷智之
13	白鳥　美穂	九州大学大学院薬学研究院 薬理学 助教	13	中枢神経薬理	11（11）	12	1	津田　　誠
14	高橋　聡子	神奈川歯科大学歯学部 基礎歯科学系生体機能学講座 口腔生理学 准教授	28	心血管薬理	30（27）	3	0	高橋　俊介

番号	候補者氏名	現職	会員歴(年)	主な研究領域	発表論文総数(原著論文数)	本学会学術集会発表総数	雑誌掲載総数	推薦学術評議員氏名
15	竹下　暢昭	アステラス製薬㈱ 薬理研究所 応用薬理研究室 主管研究員	36	中枢神経薬理	23（22）	12	4	山﨑真也子
16	谷口　哲也	株式会社富士薬品第二研究所 生物研究部薬理第二グループ グループ長	10	腎薬理	9（7）	1	1	芦澤　直樹
17	陳　　以珊	和歌山県立医科大学医学部 薬理学 講師	10	受容体・チャネル・輸送系	10（8）	4	0	西谷　友重
18	坪井　一人	川崎医科大学医学部 薬理学 准教授	5	生化学薬理	92（54）	15	2	岡本　安雄
19	富田　和男	鹿児島大学大学院医歯学総合研究科 歯科応用薬理学 講師	6	化学療法	32（28）	37	0	佐藤　友昭
20	中村　信介	岐阜薬科大学 薬効解析学 講師	5	その他（眼薬理学）	120（107）	44	12	原　　英彰
21	林　　康紀	京都大学大学院医学研究科 システム神経薬理学 教授	30	中枢神経薬理	98（76）	10	3	金子　周司
22	増田　隆博	九州大学大学院薬学研究院 薬理学 准教授	16	中枢神経薬理	36（26）	16	1	津田　　誠
23	宮﨑　智之	横浜市立大学医学部 生理学 准教授	5	中枢神経薬理	30（26）	5	0	五嶋　良郎
24	向田　昌司	岡山理科大学獣医学部 獣医薬理学 講師	14	心血管薬理	26（22）	7	7	山脇　英之
25	森脇　一将	大阪医科薬科大学医学部 薬理学 講師	10	細胞内情報伝達	17（17）	7	0	朝日　通雄
26	吉川　直樹	宮崎大学医学部附属病院 薬剤部 薬剤部長補佐	6	臨床薬理	36（31）	1	0	池田　龍二
27	吉田　彩佳	神奈川歯科大学教養・教育学系 総合歯学教育学講座 歯学教育学 准教授	15	骨・歯科薬理	34（34）	0	0	高橋　俊介
28	吉野　文彦	神奈川歯科大学基礎歯科学系 生体機能学講座 歯科薬理学 准教授	24	骨・歯科薬理	78（67）	3	0	高橋　俊介
29	米持奈央美	星薬科大学 薬物治療学 助教	10	中枢神経薬理	8（2）	23	0	池田　弘子

特例措置

番号	候補者氏名	現職	会員歴(年)	主な研究領域	発表論文総数(原著論文数)	本学会学術集会発表総数	雑誌掲載総数	推薦学術評議員氏名
30	荒川　亮介	日本医科大学大学院医学研究科 薬理学 教授	3	中枢神経薬理	82（82）	0	0	鈴木　秀典
31	楳村　敦詩	京都府立医科大学大学院医学研究科 病態分子薬理学 教授	1	消化器薬理	65（63）	0	0	矢部　千尋
32	長谷川　雄	国際医療福祉大学福岡薬学部 薬学科 教授	1	中枢神経薬理	83（64）	1	0	茂木　正樹
33	細野　祥之	岡山大学学術研究院医歯薬学域 薬理学 教授	1	化学療法	17（16）	0	0	上原　　孝

Ⅻ. 日本薬理学会「薬理学エデュケーター」認定者名簿（18 名／五十音順）

（認定期間：令和 4 年 1 月 1 日～令和 8 年 12 月 31 日）

安藤　　仁	金沢大学
大野　雄太	朝日大学
川口　　充	東京歯科大学
幸田　祐佳	大阪薬科大学
戴　　毅	兵庫医療大学
高杉　展正	岡山大学
竹内　雄一	大阪市立大学
津元　国親	金沢医科大学
徳留健太郎	大阪市立大学
中川　　崇	富山大学
中村　庸輝	広島大学
永安　一樹	京都大学
原　　雄二	静岡県立大学
藤井　健志	同志社女子大学
細木るみこ	立命館大学
前畑洋次郎	神奈川歯科大学
道永昌太郎	明治薬科大学
山田　光彦	(国研)国立精神・神経医療研究センター

第 37 回日本薬理学会学術奨励賞受賞者

（五十音順）

葛巻　直子　（星薬科大学・薬理学研究室・准教授）
『疾患 iPS 細胞分化誘導細胞の多次元的細胞特異的解析を応用した細胞特異的
遺伝子改変疾患モデル動物による高感度リバーストランスレーショナル研究の確立』

篠原　亮太（神戸大学大学院・医学研究科・講師）
『神経回路の形成・可塑性のメカニズムと病態生理学的意義の解明』

原田　龍一（東北大学大学院・医学系研究科・助教）
『PET プローブを用いた神経病理画像化に関する研究』